MITSUBISHI

三菱 DLP® プロジェクター

形名

LVP-XD3200

取扱説明書

はじめに

映像を見る

設定・調整する

その他

PJLink®

このたびは三菱 DLP® プロジェクターをお買上げいただきありがとうございました。

ご使用の前に、正しく安全にお使いいただくため、この取扱説明書を必ずお読みください。

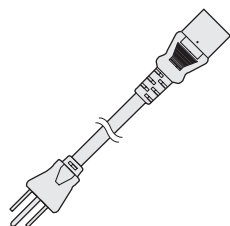
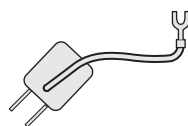
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要なときお読みください。

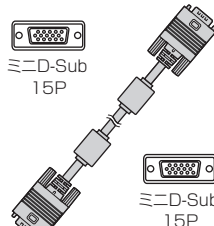
保証書は必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入をお確かめの上、お買上げの販売店からお受け取りください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は、製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。

付属品を確認する・リモコンに乾電池を入れる

付属品を確認する（このプロジェクターには次の付属品があります。そろっているかどうか確認してください。）

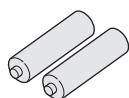
■ 電源関係

電源コード　　変換アダプター

■ 映像関係

RGB信号ケーブル

■ パソコン制御関係

RS-232Cケーブル

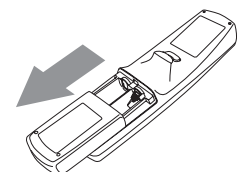
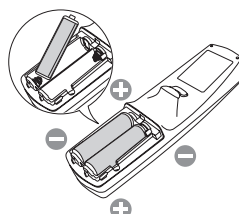
■ リモコン関係

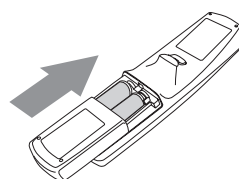
リモコン

単三乾電池（2本）

■ その他

- レンズキャップ（本体に付属）
- ターミナルカバー
- ランプ交換用トレー
- 取扱説明書
- クイックスタートアップ
- 保証書
- CD-ROM
- 三菱DIAMOND VIEW CLUBご案内

- 付属の電源コード・変換アダプターは、本製品専用です。決して他の製品には使用しないでください。

リモコンに乾電池を入れる

1 リモコン裏面のフタをはずす

2 乾電池の（＋）、（－）をよく確かめて、（－）側から正しく入れる

- 乾電池を（+）側から入れると、（ー）側へ入れるときにコイルバネ端子が乾電池の側面に当たり、入れにくくなります。このような状態で無理に入れると乾電池の外装ラベルが破れ、ショートして発熱する恐れがあります。

3 裏面のフタを付ける

- 乾電池は、単三乾電池（R6）を 2 本お使いください。
- リモコンを使用できる距離が短くなってきたら、2 本とも新しい乾電池に交換してください。

⚠注意

- 乾電池は、7 ページに記載している「乾電池の取り扱いについて」をよく読んで、正しくお使いください。使用を誤ると、液もれや発熱、破裂により、火災やけが、周囲の汚損の原因となることがあります（乾電池に表示されている注意事項もお読みください）。
- このプロジェクターはプラグ接続機器です。機器の近傍にコンセントがあり、かつ、そのコンセントには容易にアクセスできなければなりません。
- 本機には付属の電源コードをご使用ください。付属以外の電源コードを使用すると、ラジオやテレビの放送電波障害の原因となることがあります。
- J55022 クラス B 装置の規制範囲内に干渉を抑えるため、付属の RGB 信号ケーブルと RS-232C ケーブルおよびシールドされた LAN ケーブルをご使用ください。
- 本機は必ず接地してください。

もくじ

商標および著作権について

- アスペクト比の切り換えについて
  - 本機はアスペクト比切り換え機能（27 ページ）を備えていますが、入力信号と異なるアスペクト比を選択されますと、周辺画像が一部見えなくなったり、変形して見えます。制作者の意図を尊重したオリジナルな映像は、元の入力信号と同じアスペクト比でご覧ください。
  - 本機を営利目的または公衆に視聴させることを目的として、店内外、ホテルなどにおいて、アスペクト比切り換えを利用して画面の圧縮や引き伸ばしなどを行いますと、著作権法上で保護されている著作権の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。

安全のために必ずお守りください

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの	⚠注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

■図記号の意味は次のとおりです。

	絶対に行わないでください		絶対に分解・修理はしないでください		絶対に触れないでください		絶対に水にぬらさないでください
	絶対にぬれた手で触れないでください		絶対に水場では使用しないでください		必ず指示に従い、行ってください		必ず電源プラグをコンセントから抜いてください

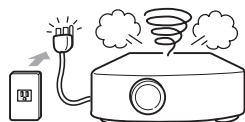
⚠警告

故障したまま使用しない

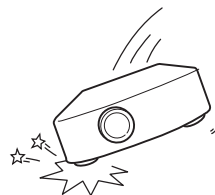
万一異常が発生したときは、電源プラグをすぐ抜く !!

異常のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、三菱電機テクニカルサポートセンターに修理をご依頼ください。

プラグを抜く

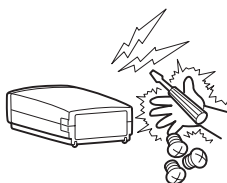
煙が出ている、変なにおいがするなど、異常なときは、電源プラグをすぐ抜く !!

プラグを抜く

異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切ったあと電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、三菱電機テクニカルサポートセンターに修理をご依頼ください。

落としたり、キャビネットを破損した場合は使わない

使用禁止

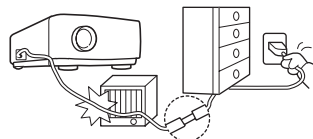
火災や感電の原因となります。

次のようなことはしない

キャビネットをはずしたり、改造しない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、さわると感電の原因となります。また、改造すると、ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。内部の点検･調整･修理は、三菱電機テクニカルサポートセンターにご依頼ください。

電源コードを傷つけない

- 重いものをのせない
- 引っ張らない
- ねじらない
- 無理に曲げない
- 加熱しない
- 加工しない
- じゅうたんなどの下にひかない

禁止

コードに傷がつくと、火災や感電、故障の原因となります。電源コードの芯線が露出したり断線するなど、コードが傷んだときは、すぐに三菱電機テクニカルサポートセンターに修理をご依頼ください。

内部に異物を入れない

禁止

金属類や燃えやすいものなどが入ると火災や感電の原因となります。

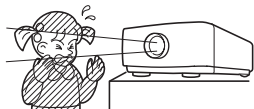
花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを上に置かない

禁止

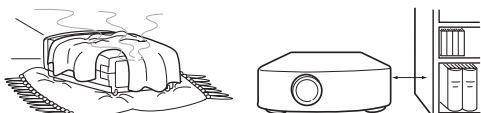
内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。

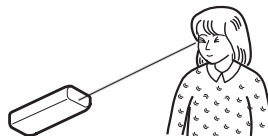
警告

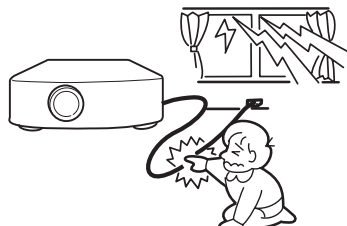
次のようなことはしない（つづき）

レンズをのぞかない

光源ランプの点灯中は、レンズをのぞかないでください。強い光によって視力障害などのけがの原因となります。

吸気口、排気口をふさがない

- 風通しの悪い狭い場所に置かない（壁から 50cm 以上離す）
- じゅうたんや布団の上に置かない
- テーブルクロスなどをかけない
- 排気口付近に燃えやすい物を置かない

吸気口や排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、製品の性能劣化や火災の原因となることがあります。

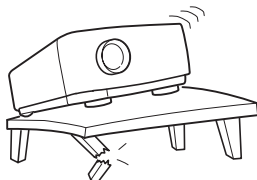
レーザー光をのぞかない

レーザー光が目に入ると失明の原因となることがあります。

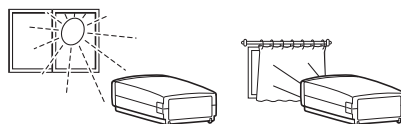
雷が鳴り出したら電源プラグには触れない

感電の原因となります。

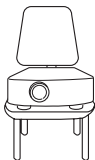
可燃性の溶剤（ベンジンやシンナーなど）やスプレーを近くで使用しない

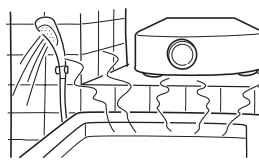
ランプを点灯すると製品内部は非常に高温になるため、引火し、火災や故障の原因となることがあります。

次のような場所に置かない

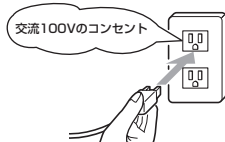
不安定な場所には置かない

（特に上下逆さまに置いた状態で）ぐらついた台の上や、傾いた所などに置くと、落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因となります。

直射日光の当たる場所に置かない
レンズを太陽に向けたり、レンズの直前に物を置かない

火災や故障の原因となります。

ソファー、椅子などの上に置かない

吸気口をふさぐと、内部に熱がこもり、製品の性能劣化や火災の原因となることがあります。

風呂場では使わない

火災や感電の原因となります。

その他

正しい電源電圧で使う

交流 100V 以外の電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

使用した直後、光源ランプの交換はしない

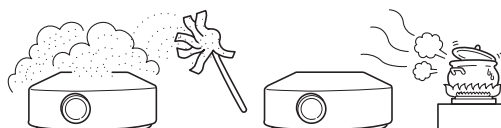
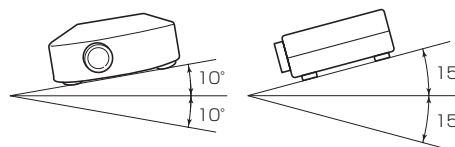
使用した直後、光源ランプは高温になっていますので、交換作業はしないでください。さわるとやけどの原因となります。

安全のために必ずお守りください（つづき）

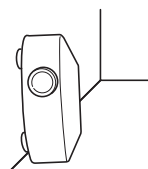
⚠注意

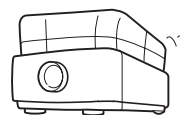
次のような場所には置かない

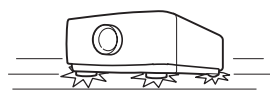
設置時は、次のような場所には置かない

- 押し入れや本棚など、風通しの悪い場所
- 閉めきった自動車内など、高温になるところ
- 排気口にエアコンなどの風が直接当たるような場所
- 熱器具や加湿器の近く
- 直射日光の当たる場所
- 火災報知器の近く
- 湿気やほこりの多い場所
- 油煙や湯気が当たる場所
- 振動や衝撃が加わる場所

傾けた状態で動作させない

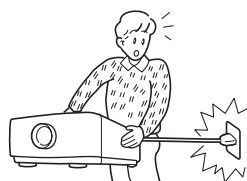
傾けた状態で動作させるとランプの故障や破裂の原因となります。左右方向に対して± 10 °、前後方向に対して± 15 °を超えて傾けた状態で動作させないでください。また、傾けた状態で設置する場合、すべり落ちることがあるので、台などに固定して使用してください。

立てた状態で置かない

倒れて、けがや故障の原因となります。

重いものを置かない、踏み台にしない

本体がこわれることがあります。また、バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

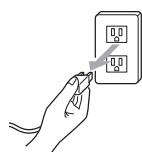
ワックスのかかった床に直接置かない

床上のワックス、洗剤、溶剤により、床材とプロジェクター底面脚部分の密着性が上がり、床材のはがれ、着色の原因になります。

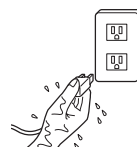
電源コード・プラグについて

接続したまま移動させない

電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。電源コードや接続コードをはずしたことを確認してから移動させてください。

電源プラグのほこりなどは定期的に取り、差し込みの具合を点検する

ほこりなどがついたり、コンセントへの差し込みが不完全な場合は、火災や感電の原因となることがあります。
1 年に 1 回はプラグとコンセントの定期的な清掃をし、最後までしっかり差し込まれているか点検してください。

電源プラグを持って抜く

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

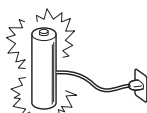
注意

乾電池の取り扱いについて

新しい乾電池と古い乾電池や、種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。

分解したり、ショートさせたり、火の中に投入しない。

プラス（+）とマイナス（−）の向きを正しく入れる。

乾電池を充電しない。
充電式の電池は使用しない。

- 乾電池は、（−）側から入れてください。
  乾電池を（+）側から入れると、（−）側へ入れるときにコイルバネ端子が乾電池の側面に当たり、入れにくくなります。このような状態で無理に入れると乾電池の外装ラベルが破れて、ショートして発熱する恐れがあります。
- 使いきった乾電池は、すぐに取り出してください。
- 乾電池の溶液が皮膚や衣服に付着したときは、きれいな水で洗い流してください。また、眼に入ったときは、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 使用済みの乾電池は、地域の破棄ルールに従って破棄してください。
- 乾電池は乳幼児の手の届かない所に置いてください。万一、飲み込んだりした場合はすぐに医師に相談してください。

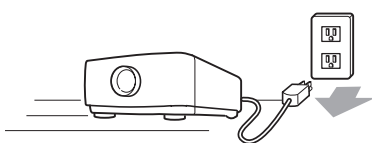
その他

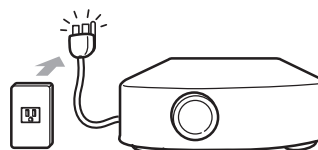
1 年に一度は内部の掃除を依頼する

三菱電機テクニカルサポートセンターにご依頼ください。ほこり、油煙、けむりなどにより内部に汚れが付着したまま長い間掃除をしないと、火災、故障や光学部品の汚れによる輝度劣化の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うのが効果的です。内部掃除費用については、三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

このプロジェクターは日本国内専用です

電源電圧の異なる海外では使用できません。また、アフターサービスもできません。
This projector is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.

ご使用が終わったときは、電源プラグをコンセントから抜いておく

電源ボタンで電源を切り、光源ランプを消灯したスタンバイ（待機状態）にします。**約 2 分間**待ったあと、主電源スイッチを切り、安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
スタンバイにして約 2 分間待つのは、光源ランプを冷やすために吸・排気ファンが回っているからです。

お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行う

安全のため、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
感電の原因となることがあります。

排気口、底板は熱くなりますので触れないこと

やけどや他の機器への損害を与える原因となりますので、さわったり、排気口の近くに他の機器を設置したりしないでください。また、熱に弱い机の上などに置かないでください。

海抜 1500m 以上での使用は避ける

海抜 1500m 以上での使用は、製品の寿命に影響する恐れがあります。

製品使用中は排気口をのぞき込まない

排気口から温風、ゴミなどが吹き出すため、目をいためることがあります。

結露した状態で使用しない

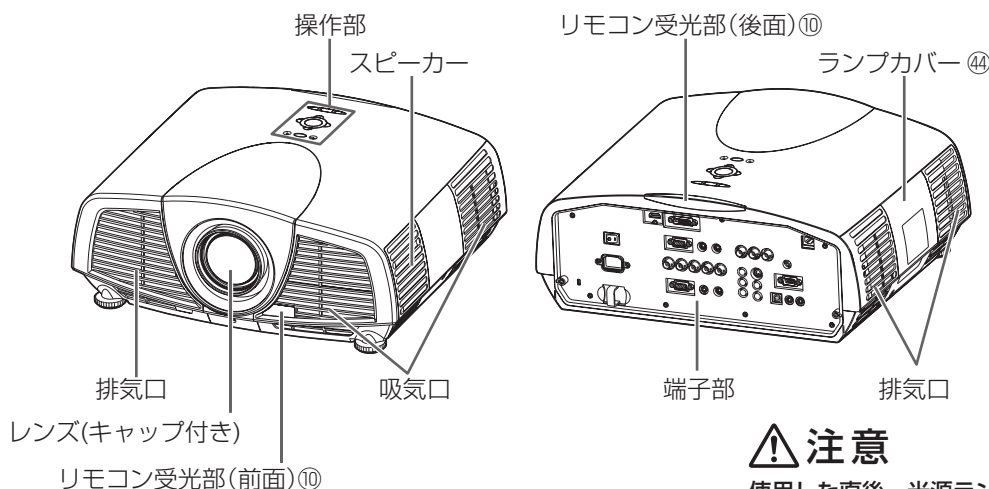
結露した状態で使用すると、故障やその他の不具合が発生する原因となることがあります。

レンズシフト動作中はレンズ開口部に手を入れない

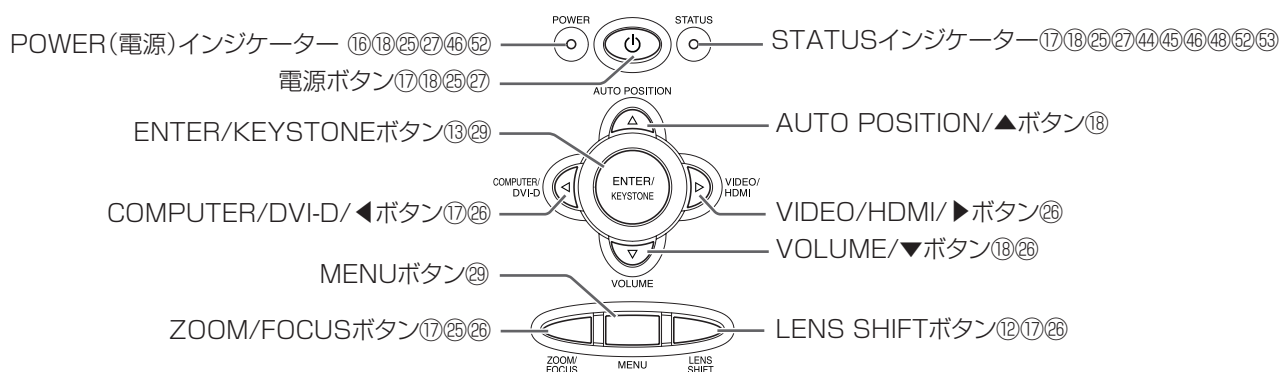
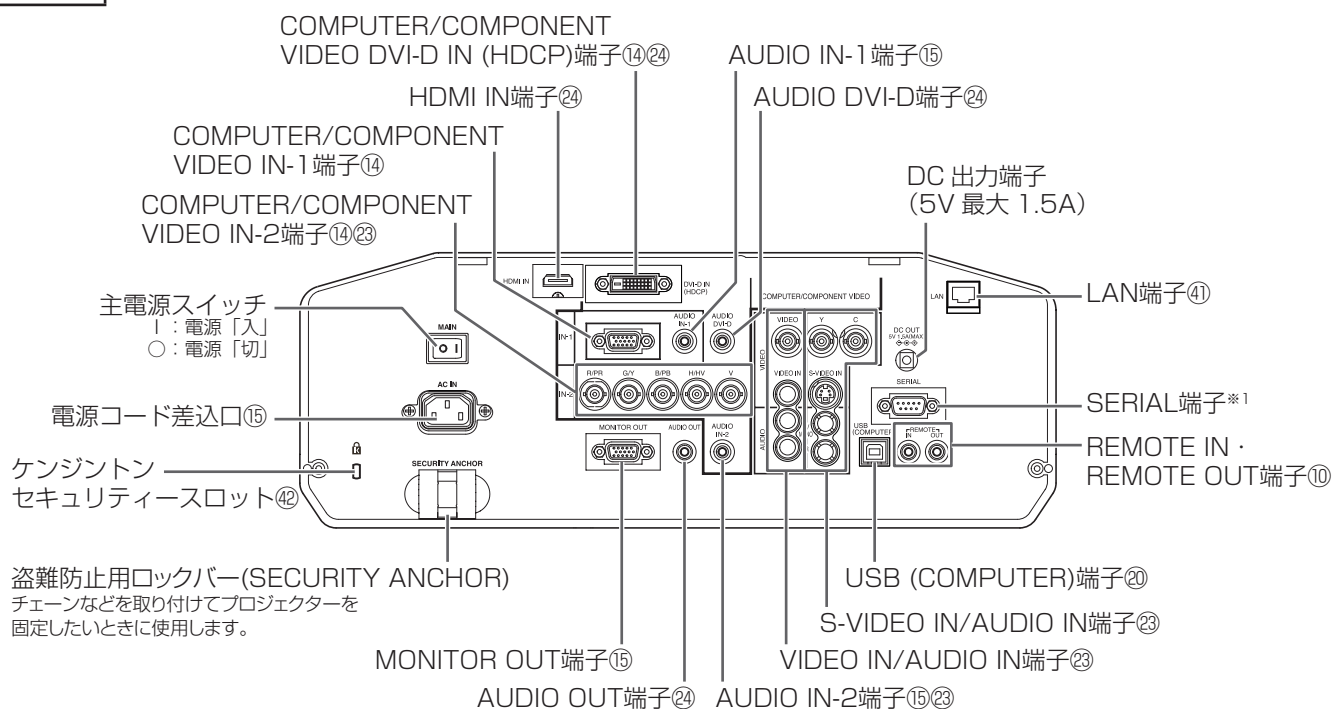
手（指）がはさまれ、けがの原因となることがあります。

各部のなまえ

本体のなまえ（◯は参照ページ）

本体

⚠注意

使用した直後、光源ランプは高温になっていますので、交換作業はしないでください。さわるとやけどの原因となります。

操作部（天面）

端子部

※1：コンピューターで本機を制御するときに使用します。くわしくは三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

底面部

リモコンのなまえ（◯は参照ページ）

⚠警告

付属のリモコンは、LASER ボタンを押すとレーザー光を発します。以下の事項を必ずお守りください。

- レーザー光をのぞき込まないこと。
- レーザー光を人に向けないこと。
- 子供に使わせないこと。

レーザー光が目に入ると失明の原因となることがあります。
ご使用になる前にリモコンの注意表示をよくお読みになり、必ずお守りください。

レーザー光について

このリモコンはクラス 2（最大出力：1.0mW、レーザー光の波長：620 ～ 640nm）レーザー製品です。
ビームの広がり：6m の位置で 10.0mm × 10.0mm（± 6mm）。

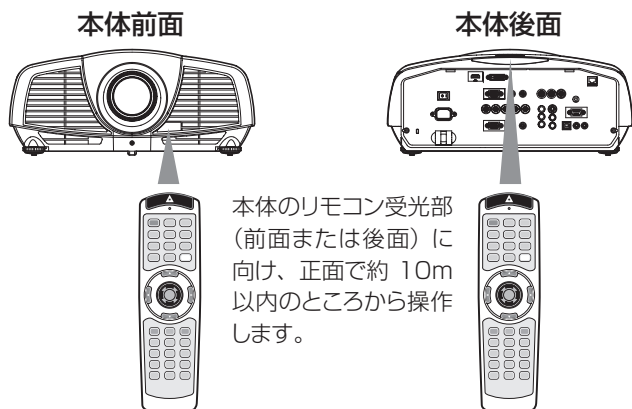
- ここに規定した以外の手順による制御や調整は、危険なレーザー放射の被ばくをもたらします。

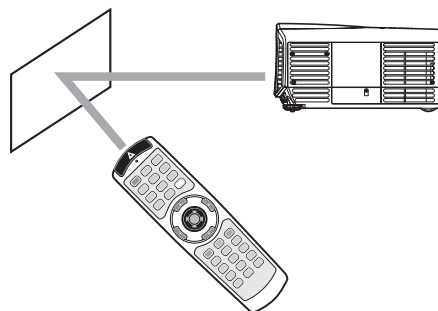
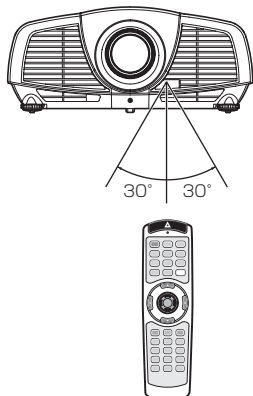
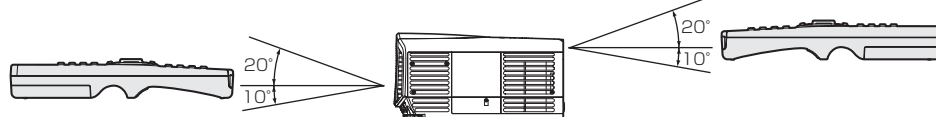
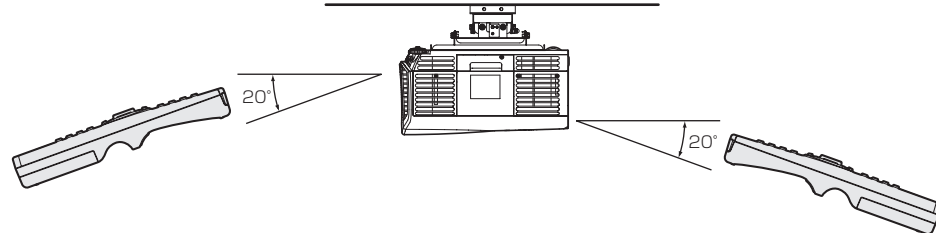
本リモコンは修理できません。

リモコンの使いかた

ワイヤレスリモコンとして使う

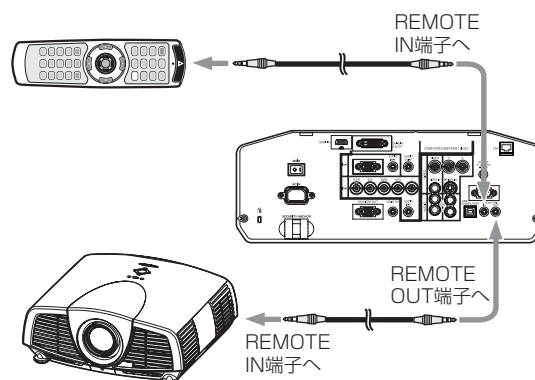
操作距離範囲

スクリーンに向けて操作する場合は、リモコンからスクリーンおよびスクリーンから本機までの合わせた距離が約 5m 以内にします。ただし、スクリーンによって操作可能範囲は異なります。

お知らせ

- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の光などが直接当たらないようにしてください。
- リモコン受光部と蛍光灯は 2m 以上離してください。リモコンが誤動作することがあります。
- インバーター方式の蛍光灯が近くにある場合、リモコンが効きにくくなることがあります。
- リモコンと本体を近づけ過ぎると、リモコンが効きにくくなることがあります。

操作角度範囲

ワイヤードリモコンとして使う

本機に付属のリモコンは、リモコンケーブルを接続することにより、ワイヤードリモコンとしても使えますので、操作範囲からはずれていても確実に遠隔操作することができます。

お知らせ

- 接続には、市販の ϕ 3.5 ステレオタイプのピンーピンケーブルをご使用ください。ただし、ケーブルによっては正しくはたらかないことがあります。
- 本機の REMOTE OUT 端子ともう 1 台のプロジェクターの REMOTE IN 端子をピンーピンケーブルで接続すると、2 台同時に操作することができます。
- リモコンケーブルが本機に接続されているときは、ワイヤレスリモコンとしては、はたらきません。
- ワイヤードリモコンとしてご使用の場合、レーザー光が暗くなることがありますが、故障ではありません。

設置する

スクリーンの設置

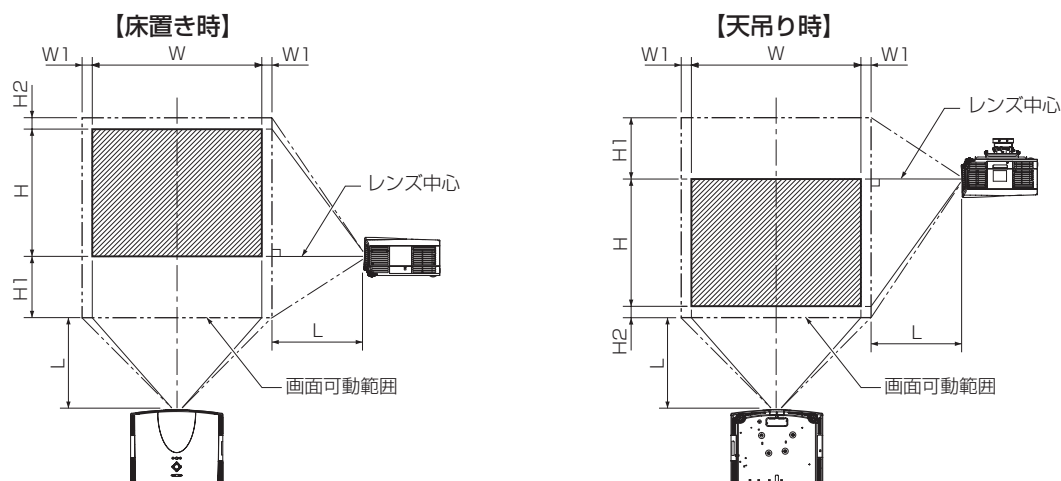
スクリーンはプロジェクターに対して垂直になるように設置してください。垂直に設置できない場合は、プロジェクターの投写角度を調整してください。（12 ページ参照）

- プロジェクターのレンズがスクリーンの中心にくるように設置してください。
- スクリーンを直射日光や照明の光の当たる場所に設置しないでください。スクリーンに直接当たる光で画面が白っぽくなり、投写映像が見にくくなります。

画面サイズと投写距離

下記の表を参考にスクリーンサイズと投写距離を決めてください。

【床置き時】

【天吊り時】

画面サイズ			投写距離 L		レンズシフト高さ		レンズシフト幅 W1
(形)	幅 W(cm)	高さ H(cm)	最短(m)	最長(m)	H1(cm)	H2(cm)	(cm)
40	81	61	1.4	1.9	30	6	8
60	122	91	2.1	2.8	46	9	12
80	163	122	2.8	3.8	61	11	16
100	203	152	3.5	4.8	76	14	20
150	305	229	5.3	7.2	114	21	30
200	406	305	7.1	9.7	152	28	41
250	508	381	8.9	–	191	36	51
300	610	457	10.6	–	229	43	61

- 表の中の数値は、実際と数%誤差が生じることがあります。
- レンズシフト高さと幅は、工場出荷時の位置からの値を示しています。

お知らせ

- 設置する場所については、あらかじめ 4 ～ 7 ページの「安全のために必ずお守りください」をお読みください。
- 天吊りにするなどの設置工事は、必ず教育を受けた専門の工事業者に依頼してください。くわしくは 42 ページをご覧ください。

設置する（つづき）

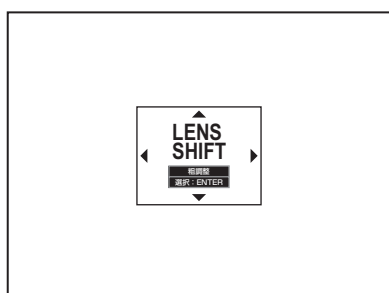
設置の調整

電源の入れかたについて

設置の調整のために電源を入れる必要があるときは、下記のページをご覧ください。
- 電源コードを差し込む（15 ページ）
- 電源を入れる（16 ページ）
- 電源を切る（18 ページ）

投写した映像の位置を調整する

投写した映像がスクリーンからはみだすときは、設置位置を調整するか、レンズシフトでレンズ位置を調整してください。

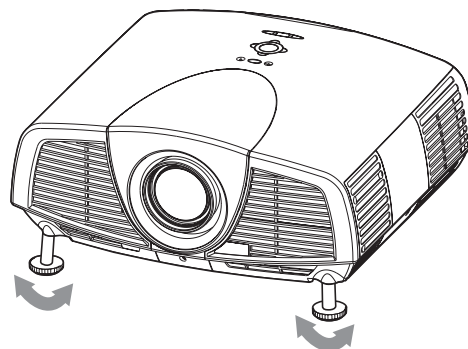
1 LENS SHIFT ボタンを押す
- 画面中央にレンズシフト表示が表示されます。

2 ▲、▼、▶、◀ボタンを押してレンズ位置を調整する
- ▼ボタンを押すと映像が下に移動します。
- ▲ボタンを押すと映像が上に移動します。
- ▶ボタンを押すと映像が右に移動します。
- ◀ボタンを押すと映像が左に移動します。

お知らせ
- レンズシフト表示の表示中に ENTER ボタンを押すと、粗調整／微調整の切り換えができます。粗調整にすると▲、▼、▶、◀ボタンを押したときの移動量が大きくなり、微調整にすると移動量が小さくなります。
- 無信号時にレンズシフト表示を表示させると、画面全体にクロスハッチが表示されます。
- レンズシフト動作中、レンズ開口部に手などをはさまないよう、注意してください。
- レンズシフト動作中は画面がちらつくことがあります。

画面の傾きやひずみを調整する

スクリーンに角度がついていて画面が台形にひずんでいるときは、以下のようにして投写角度を調整してください。

1 本体を投写させたい角度まで持ち上げる
- 傾き角を前後方向に対して 15° 以内に設置してください（角度調整脚のみによる角度調整角は、最大 7° になります）。

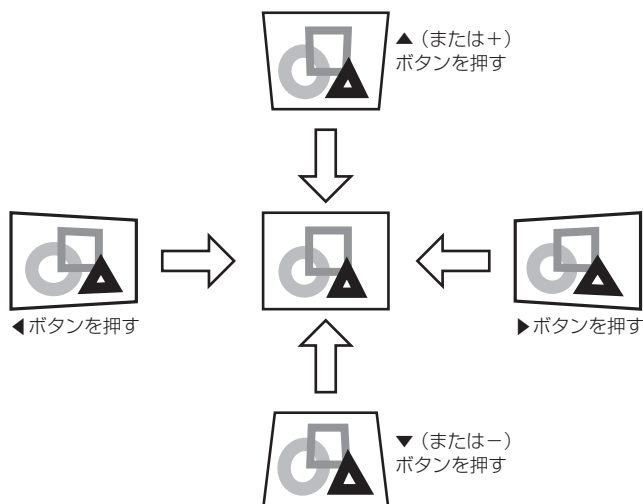
2 角度調整脚を左右に回して調整する

角度調整脚を伸ばした状態ではプロジェクターを運搬しないでください。伸ばした状態で運搬すると、調整脚が破損する恐れがあります。

スクリーン上の映像に縞模様が見えるときは

スクリーンとの干渉によるもので、故障ではありません。
スクリーンを交換するか、本機のフォーカスを少しずらしてみてください。（17、26 ページ参照）

画面が台形にひずむときは

スクリーンと本機が垂直になっていないと画面が台形になります。本機およびスクリーンを調整しても垂直にならないときは、本体またはリモコンのKEYSTONEボタンを押して「台形補正」を表示させてから、◀、▶、▲（または＋）、▼（または－）ボタンを押して調整します。

床置きで正面から映像を見たとき

お知らせ

- 台形補正は、レンズ位置が工場出荷時と同じ位置のときに最適な補正が可能になります。台形補正を行うときは、あらかじめレンズシフトリセットを行ってください。（33 ページ参照）
- 台形補正時には調整値が表示されますが、投写角度とは異なります。
- 調整時に表示される調整値は、設置状態により調整範囲が異なります。
- 台形補正を行うと、解像度が低下します。また、細かい模様の映像での縞の発生、直線の折れ曲がりなどの現象が見られますが、故障ではありません。
- 台形補正を行うと映像がひずむことがあります。
- 本体とスクリーンの設置条件によっては、正しく長方形にならない場合や、正しいアスペクト比にならない場合があります。
- 映像信号の種類と台形補正の調整値によっては、台形補正中に映像が乱れることがあります。その場合は、映像が乱れない範囲内で調整を行ってください。
- 水平・垂直の台形補正を組み合わせて行うと、それぞれ単独で調整する場合よりも、補正できる範囲が狭くなります。
- オプションレンズ使用時に台形補正を行うと、正しいアスペクト比にならない場合があります。

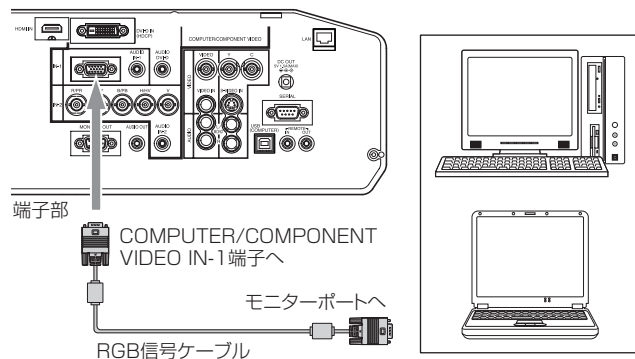
コンピューターの映像を見る

A. コンピューターと接続する

- 接続する機器の説明書もあわせてご覧ください。
- 接続について、くわしくは販売店にお問い合わせください。

準備

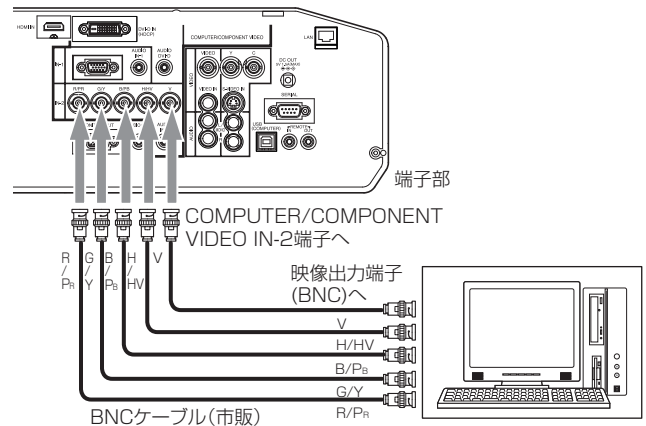
- プロジェクターおよびコンピューターの電源が切れていることを確認する
- デスクトップタイプのコンピューターの場合、モニターに接続されている RGB 信号ケーブルをはずす

アナログ RGB（ミニ D-Sub15 ピン）端子付きコンピューターと接続する

1 付属のRGB信号ケーブルを本機のCOMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1 端子に接続する

2 コンピューターのモニターポートに RGB 信号ケーブルのもう一方を接続する

お知らせ

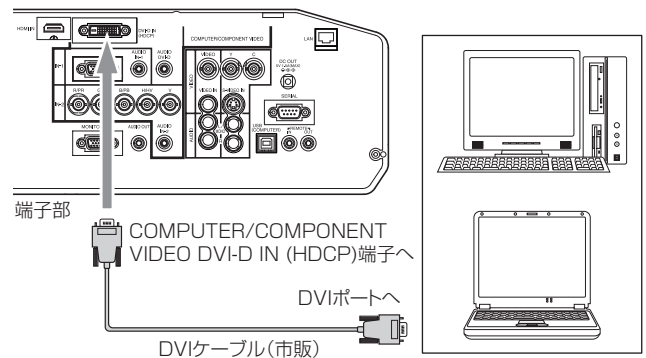
- 接続するコンピューターの機種によっては、変換コネクターやアナログ RGB 出力アダプターなどが必要となる場合があります。
- 付属の RGB 信号ケーブル以外の長いケーブルを使用すると、映像が正常に映らないことがあります。
- 本機の COMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1 端子は DDC1/2B に対応しています。この規格に対応したコンピューターと接続した場合、コンピューターが自動的に本機の情報を読み出し、適切な映像を出力するように設定されます。
- DDC 対応のコンピューターと接続している場合、本機の電源プラグを電源コンセントに差し込んでからコンピューターを起動してください。

5 線式アナログ RGB（BNC）端子付きコンピューターと接続する

1 市販の BNC ケーブル(5 本)を本機の COMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-2 端子に接続する

2 コンピューターの映像出力端子（BNC）に BNC ケーブルのもう一方を接続する

お知らせ

- 接続するコンピューターの機種によっては、変換コネクターやアナログ RGB 出力アダプターなどが必要な場合があります。
- 長いケーブルを使用すると正常に映像が映らないことがあります。

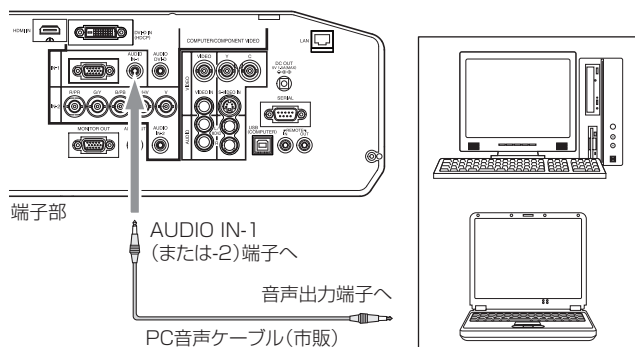
DVI 端子付きコンピューターと接続する

1 市販の DVI ケーブルを本機の COMPUTER/COMPONENT VIDEO DVI-D IN (HDCP) 端子に接続する

2 コンピューターの DVI ポートに DVI ケーブルのもう一方を接続する

3 本機の電源コードを差し込んでからコンピューターを起動する

お知らせ

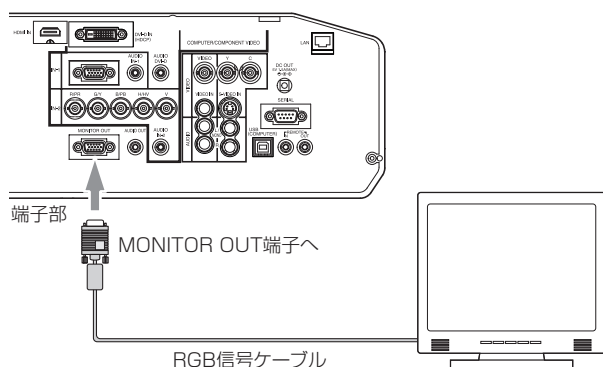
- 先にコンピューターを起動した場合、映像が表示されない場合があります。
- 本機のCOMPUTER/COMPONENT VIDEO DVI-D IN (HDCP) 端子は DDC2B に対応しています。この規格に対応したコンピューターと接続した場合、コンピューターが自動的に本機の情報を読み出し、適切な映像を出力するように設定されます。
- DDC 対応のコンピューターと接続している場合、本機の電源プラグを電源コンセントに差し込んでからコンピューターを起動してください。

コンピューターの音声をプロジェクターから出力する

1 市販のPC音声ケーブルを本機のAUDIO IN-1（または-2）端子に接続する

2 PC音声ケーブルのもう一方をコンピューターの音声出力端子に接続する

お知らせ

- 本機の音声入力端子は、ステレオミニジャックです。接続するコンピューターの音声出力端子の形状に合わせてケーブルをお買い求めください。
- 電源スタンバイ中は、本機のスピーカーおよびAUDIO OUT端子から音声は出力されません。

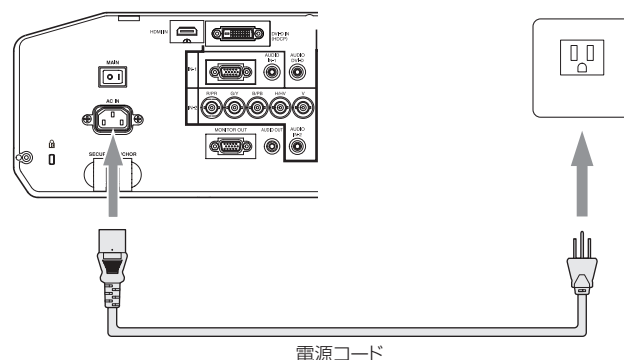
プロジェクターの投写映像をモニターで見る（デスクトップのみ）

1 モニターに接続されているRGB信号ケーブルを本機のMONITOR OUT端子に接続する

お知らせ

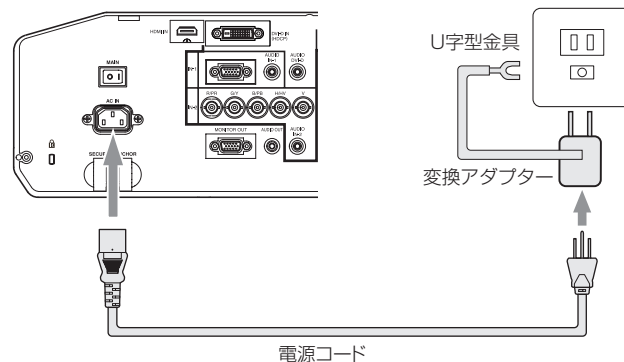
- 接続するケーブルによっては、正常に映像が映らないことがあります。
- 電源スタンバイ中は、MONITOR OUT端子から映像は出力されません。

B. 電源コードを差し込む

- 万一、本機が故障した場合においても安全性が確保できるように、漏電ブレーカーを備えたコンセントから本機に電源を供給してください。漏電ブレーカーを備えたコンセントがない場合は、販売店に工事をご依頼ください。

電源コンセントにアース端子の差込口が付いている場合

1 付属の電源コードを本機の電源コード差込口に接続する

2 電源コードのもう一方を電源コンセントに差し込む

電源コンセントにアース端子の差込口が付いていない場合

1 付属の電源コードを本機の電源コード差込口に接続する

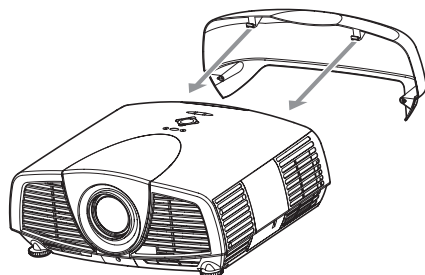
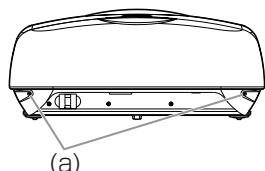
2 電源コードのもう一方に付属の変換アダプターを取り付ける

3 変換アダプターのU字型金具を電源コンセントのアース端子に接続する
- 接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から抜いたあとに行ってください。
- 変換アダプターのアースをガス管・水道管・避雷針などへ絶対に取り付けないでください。
- 電源コンセントにアース端子がない場合は、アース工事を販売店にご依頼ください（有料）。

4 変換アダプターを電源コンセントに差し込む
- 本機の電源は、必ずアース付き交流100Vのコンセントを使用してください。

C. ターミナルカバーを取り付ける

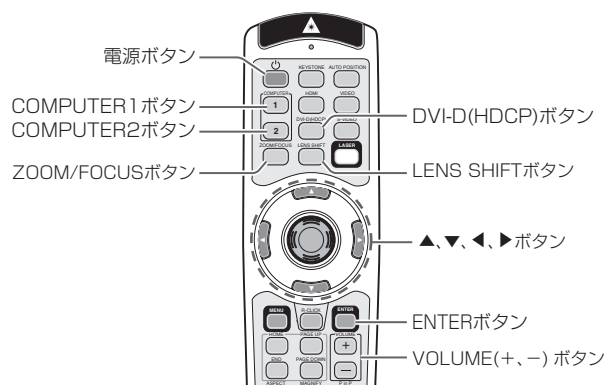
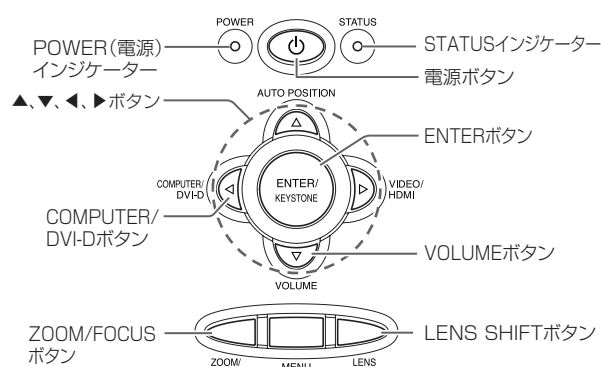
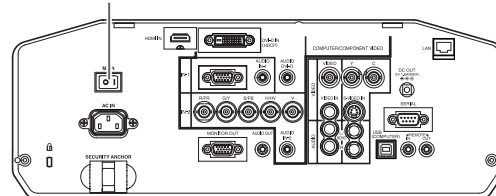
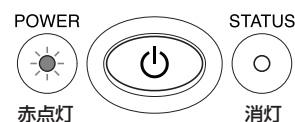
本機には、ターミナルカバーが付属しています。必要な場合、以下のように取り付けてください。

1 ターミナルカバーの突起部（2カ所）をプロジェクターに差し込む

2 ターミナルカバーに取り付けられているネジ2本（a）をプラスドライバーでしっかりと締める

お知らせ

● ターミナルカバーを持って移動させないでください。

D. 投写する

準備

● レンズキャップをはずす
● コンピューターの電源を入れる

電源を入れる

1 主電源スイッチを入れる

● POWER インジケーターが赤色に点灯します。
● 主電源スイッチを入れると、ファンが回転し、電源ボタンが動作しないときがあります。これは前回の使用時に冷却が不完全な状態で終了されたためです。ファンが停止してから電源ボタン（⏻）を押して、再度点灯させてください。

2 電源ボタン（⏻）を押す

- ランプ点灯に 1 分程度かかる場合があります。
- まれにランプ点灯に失敗することがあります。数分たってから再度電源ボタン（⏻）を押してください。
- 電源ボタン（⏻）を押したあと、ランプが安定して点灯するまで映像がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 電源を入れて 1 分後にランプ点灯が安定したあと、メニューで設定しているランプモードに切り換わります。その際、画面が乱れることがあります。
- 使用中はレンズキャップをレンズに被せないでください。
- レンズキャップ内側のアルミシートを剥がさないでください。

ピントを調整する

3 ZOOM/FOCUS ボタンを押して画面にズーム／フォーカス表示を表示させる

4 ◀、▶ボタンを押してピントを調整する

- ズーム／フォーカス表示の表示中に ENTER ボタンを押すと、粗調整／微調整の切り換えができます。粗調整にすると◀、▶ボタンを押したときのピント調整の速度が速くなり、微調整にすると遅くなります。

入力を切り換える

5 【COMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1（または -2）端子に接続した機器の映像を見る場合】

リモコンの COMPUTER1（または 2）ボタンまたは本体の COMPUTER/DVI-D ボタンを押して、画面に「COMPUTER1（または 2）」を表示させる

【COMPUTER/COMPONENT VIDEO DVI-D IN (HDCP) 端子に接続した機器の映像を見る場合】

リモコンの DVI-D(HDCP) ボタンまたは本体の COMPUTER/DVI-D ボタンを押して、画面に「DVI」を表示させる

- 本体の COMPUTER/DVI-D ボタンを押すごとに、表示が「COMPUTER1」→「COMPUTER2」→「DVI」→「COMPUTER1」と切り換わります。
- ノートタイプのコンピューターの場合、コンピューター側の設定を変更しないと映像が投写されない場合があります。くわしくは 18 ページをご覧ください。
- 「COMPUTER1（または 2)」入力時に画面がちらつくときは、リモコンの◀または▶ボタンを押してちらつきをなくしてください。（ファイン調整）
- メニュー画面表示中は、入力切換できません。

設置する

6 所定の画面サイズが得られるように投写距離を調整して設置する

- スクリーンから本機までの距離は、11 ページの表を目安にして設置してください。

7 本機とスクリーンが垂直になるように設置する

- 本機とスクリーンが垂直にならない場合は、角度調整を行ってください。（12 ページ参照）

8 ZOOM/FOCUS ボタンを押して画面にズーム／フォーカス表示を表示させる

9 ▲、▼ボタンを押して投写画面サイズに合わせる

- ズーム／フォーカス表示の表示中に ENTER ボタンを押すと、粗調整／微調整の切り換えができます。粗調整にすると▲、▼ボタンを押したときのズーム調整の速度が速くなり、微調整にすると遅くなります。

10 LENS SHIFT ボタンを押して画面にレンズシフト表示を表示させる

11 ▲または▼ボタンを押して上下方向、◀または▶ボタンを押して左右方向を調整し、画面位置を合わせる

- レンズシフト表示の表示中に ENTER ボタンを押すと、粗調整／微調整の切り換えができます。粗調整にすると▲、▼、◀、▶ボタンを押したときの移動量が大きくなり、微調整にすると移動量が小さくなります。
- レンズシフト動作中は、レンズ開口部に手などをはさまないよう、注意してください。
- 画面がスクリーン内に収まらない場合は、角度調整を行ってください（12 ページ参照）。さらに、必要な場合は台形補正を行ってください（13 ページ参照）。

必要に応じて、操作 3 、4 および 8 ～ 11 の設定を微調整してください。

お知らせ

- 長時間 16：9 表示で使用したあと 4：3 表示で使用すると、画面の上下にマスク部分の痕跡が残る場合があります。このような場合は、テクニカルサポートセンターにご相談ください。

コンピューターの映像を見る（つづき）

音量を調整する

⑫ リモコンの VOLUME（＋または－）ボタンを押して音量を調整する

- 本体で操作する場合は、VOLUME ボタンを押してから、◀または▶ボタンを押して調整します。
- メニューが表示されているときは、VOLUME ボタンははたらきません。

電源を切る

⑬ 電源ボタン（⏻）を押す

- 「電源オフ時は再度電源ボタンを押して STATUS インジケーターが消えるまでクーリングしてください」のメッセージが表示されます。
- この状態を解除するには、電源ボタン（⏻）以外のボタンを押してください。または 10 秒後にメッセージは消えます。

⑭ 電源ボタン（⏻）をもう一度押す

- 光源ランプが消灯し、スタンバイ状態になります。このとき、STATUS インジケーターが点滅します。

⑮ STATUS インジケーターの緑点滅が消えるまで、約 2 分間そのまま待つ

- スタンバイ状態で約 2 分間待つのは、光源ランプを冷やすために、吸・排気ファンが回っているからです。
- プロジェクター周囲の温度が高くなると排気ファンの動作音が大きくなります。
- 冷却中はファンの動作音が大きくなりますが、故障ではありません。

⑯ 主電源スイッチを切る

- POWER インジケーターが消灯します。
- 吸・排気ファンの回転中またはランプの点灯中に主電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりした場合は、プロジェクターを冷却するため、10 分間電源を切ったままにしておいてください。ランプを再度点灯させる場合は、電源ボタン（⏻）を押してください。ランプがすぐに点灯しない場合は、数分たってから再度電源ボタン（⏻）を押してください。それでもランプが点灯しない場合は、ランプを交換してください。
- 安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 外部からのほこりを防ぐためにレンズキャップをしてください。
- ランプ点灯後 30 分以内に主電源スイッチを切ることを繰り返すと製品のクロック機能を誤動作させる場合があります。

ダイレクトパワーオフ

本機は、電源ボタンを押さずに、主電源スイッチを切る、または電源コードを抜いて電源を切ることができます。

- ランプ点灯後、STATUS インジケーターの点滅中はダイレクトパワーオフを行わないでください。ランプ寿命に影響する恐れがあります。
- ランプ点灯後 30 分以内でのダイレクトパワーオフを繰り返すと、ランプにダメージを与える恐れがあります。
- ダイレクトパワーオフした場合、すぐに電源を入れないでください。（約 10 分間お待ちください。）すぐに電源を入れるとランプ寿命に影響する恐れがあります。
- ダイレクトパワーオフする前には必ずメニューの表示を消してください。メニュー操作中にダイレクトパワーオフすると、設定内容が記憶されない場合があります。
- ネットワーク機能を用いて本機を制御中にダイレクトパワーオフを行うと、ProjectorView などのアプリケーションソフトに異常が発生する場合があります。くわしくは CD-ROM 内の「LAN 制御 UTILITY 操作説明書」をご覧ください。

ノートタイプの場合

ノートタイプのコンピューターと接続した場合、映像が投写されない場合があります。そのときは、コンピューターの信号を外部に出力させる設定を行ってください。設定のしかたは、コンピューターによって異なりますので、コンピューターの取扱説明書をご覧ください。

- 外部出力させる操作の例
  「Fn」キー＋「 F1」～「F12」キーのいずれか（機種によって異なります）を押す。

AUTO POSITION ボタンによる調整

コンピューターの映像がずれるときは以下の操作を行ってください。

1 できるだけ明るい、テキスト文書など文字を多く含む画面にする

2 スクリーンセーバーがはたらいているときは、スクリーンセーバーを解除する

3 AUTO POSITION ボタンを押す

入力信号に最適な設定になるように自動調整が行われます。

- 数回、AUTO POSITION ボタンを押してもまだずれる場合は、「コンピューター映像の調整」（38、39 ページ）を参照して調整してください。

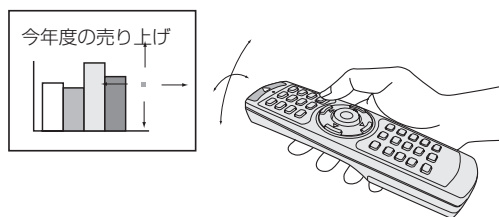
解像度の設定について

コンピューターとプロジェクターの解像度が合っていない場合、映像がにじむことがありますので、双方の解像度を合わせてください（50 ページ参照）。なお、コンピューターの出力解像度の変更方法については、コンピューターメーカーにお問い合わせください。

プレゼンテーションを演出する

プレゼンテーションを行う上で便利な使い方を紹介します。

リモコンをレーザーポインターとして使う

注目させるポイントを赤い点で指し示すことができます。

リモコンのLASERボタンを押している間、レーザー光を発します。

- レーザー光は、1分間照射すると自動的に発光を停止します。もう一度照射する場合は、LASERボタンを一度離してから、もう一度押してください。

お知らせ

- 安全のために、LASERボタンを押してもレーザー光を照射しないようにすることもできます。

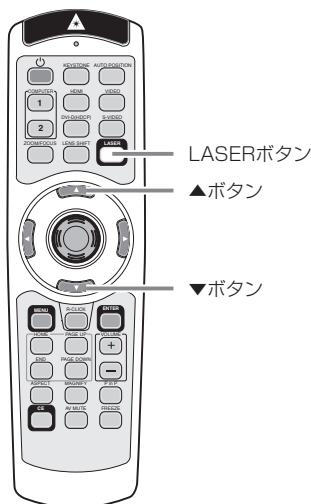
レーザー光を照射しない状態にするには

1 LASERボタンを押しながら▼ボタンを3回押す

レーザー光を照射する状態に戻すには

1 LASERボタンを押しながら▲ボタンを3回押す

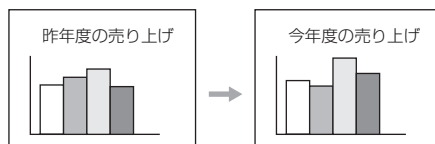
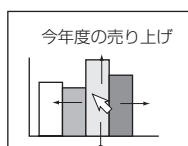
お知らせ

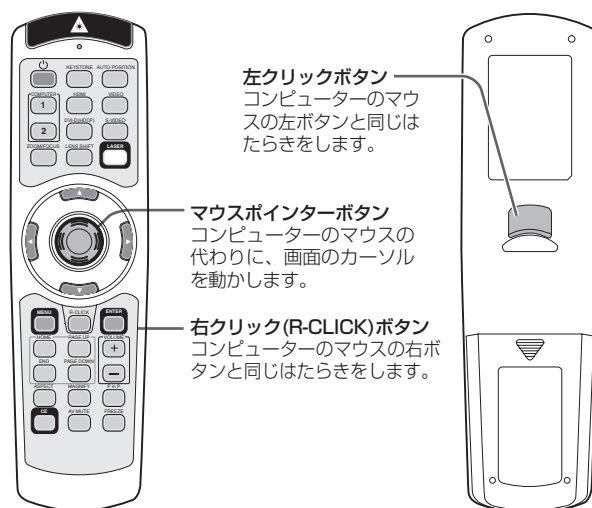
- 電池交換した場合、レーザー光を照射する状態に戻ります。

⚠警告

- レーザー光を直接のぞき込まないでください。また、レーザー光を人に向けないでください。レーザー光が目に入ると失明の原因となることがあります。

リモコンをコンピューターのマウスとして使う（マウスリモコン）

本機とコンピューターをUSB接続すれば、本機のリモコンでコンピューターの操作が行えます。たとえば、プレゼンテーションソフトのページをめくったり、コンピューター画面上のカーソルを動かすことができます。

次の画面へ切り換える

カーソルを動かす

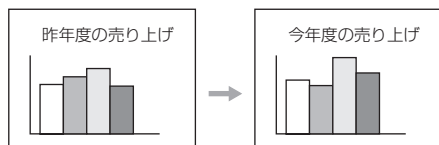
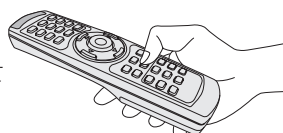
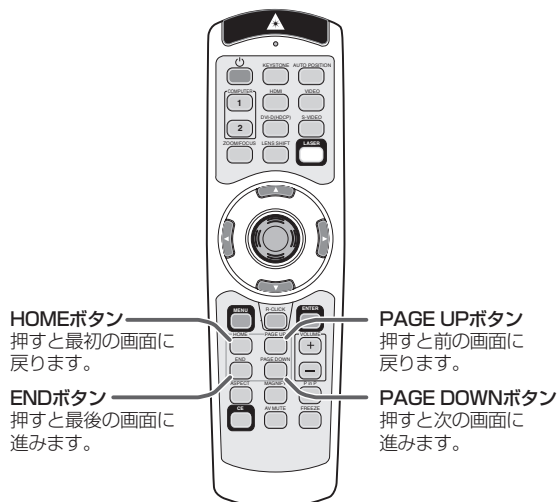
マウスとして使用するボタン

本機のリモコンでコンピューターの操作を行うには、次ページの接続をします。

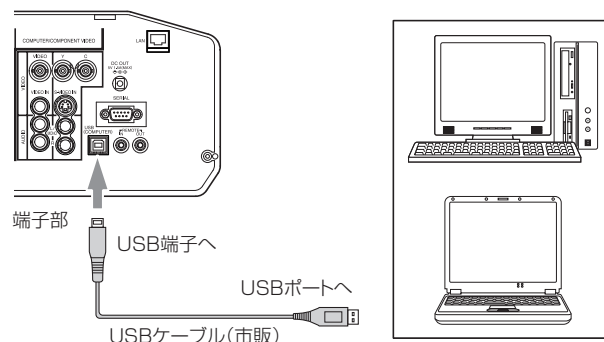
映像を見る

プレゼンテーションを演出する
コンピューターの映像を見る

プレゼンテーションを演出する（つづき）

リモコンをプレゼンテーションソフトのページ送りキーとして使う

本機とコンピューターを USB 接続すれば、本機のリモコンでプレゼンテーションソフトの画面を進めたり、戻したり、最初のページや最後のページに飛ばしたりすることもできます。

ページ送りキーとして使用するボタン

本機のリモコンでコンピューターの操作を行うには、次の接続をします。

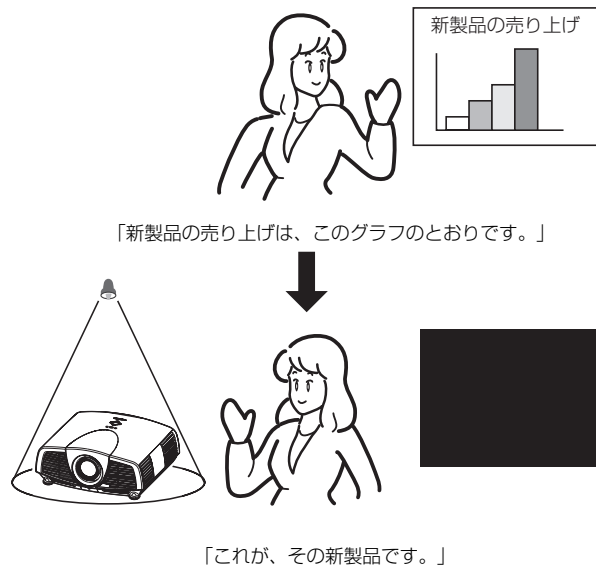
リモコンでコンピューターを操作するための接続

お知らせ

- 本機のリモコンで操作できるのは、USB を標準でサポートしているコンピューターのみです。
- USB ケーブルは、本機の光源ランプが点灯してから接続してください。
- 長い USB ケーブルを使用すると、リモコンによるコンピューターの操作が正常に行えない場合があります。ケーブル長を長くしたい場合は、リピーターのご使用をおすすめします。
- 電源スタンバイ中および電源オン時の数十秒間は、リモコンによるコンピューターの操作は行えません。

映像と音声を一時的に消す（AV ミュート）

スピーチやプレゼンテーション映像以外のものに視線を集中させたいときなど、一時的に映像と音声を消すことができます。

「新製品の売り上げは、このグラフのとおりです。」

「これが、その新製品です。」

操作のしかた

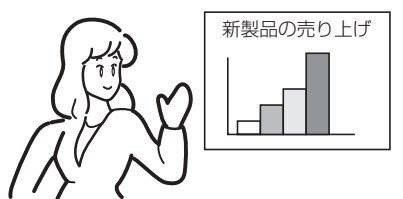
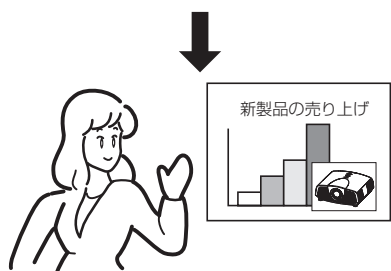
1 リモコンの AV MUTE ボタンを押す

- 映像が真っ暗になり、音声が消えます。
- もう一度 AV MUTE ボタンを押すと、通常画面に戻ります。

お知らせ

- AV ミュートの解除には数秒かかります。
- 設置メニューの AV ミュートモードの設定を「IMAGE」にしていると、AV MUTE ボタンを押したときにスプラッシュスクリーン（起動画面）が表示されます。スプラッシュスクリーンは、任意に変更することができます。くわしくは、22 ページをご覧ください。

コンピューター映像とビデオ映像を同時に見る（PinP）

異なる入力の映像を同時に見ることができます。
- 「COMPUTER1」、「COMPUTER2」、「DVI」、「HDMI」入力の映像を表示しているときに、「VIDEO」または「S-VIDEO」入力の映像を子画面で見ることができます。

「売り上げは、このように順調に伸びています。」

「その成功の秘訣をビデオ映像で紹介します。」

表示のしかた

1 リモコンの PinP ボタンを押す
- PinP 表示になります。
- もう一度 PinP ボタンを押すと、通常画面に戻ります。

子画面の入力を切り換えたいときは

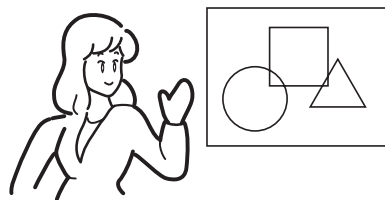
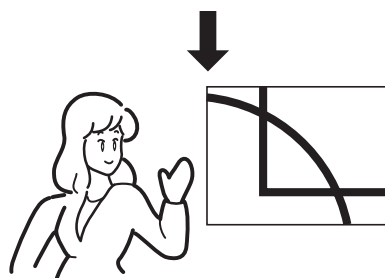
1 リモコンの VIDEO、S-VIDEO ボタンを押す

子画面の表示位置を変更したいときは

1 ◀または▶ボタンを押す

お知らせ
- アスペクト比の設定が「NORMAL」以外のときは、PinP ははたらきません。
- 親画面の入力信号によっては、PinP がはたらかない場合があります。対応信号については 50 ページをご覧ください。
- PinP 表示中に親画面の入力が無信号になると、PinP は解除されます。
- PinP 表示中にリモコンの COMPUTER1、COMPUTER2、DVI-D(HDCP)、HDMI ボタンを押すと、PinP は解除されます。
- 子画面が無信号の場合は表示位置の変更はできません。
- PinP 表示中は、親画面の音声が出力されます。
- PinP 表示中は、メニュー画面での信号設定はできません。
- 入力信号や設定によっては子画面のサイズが変わります。

画面を拡大して見る（画面拡大機能）

画面の一部を拡大して見ることができます。
- 「COMPUTER1」、「COMPUTER2」、「DVI」、「HDMI」入力の映像を表示しているときに画面を拡大することができます。

「この丸と四角の交点にご注目ください。」

「少しわかりにくいので拡大してみます。」

表示のしかた

1 リモコンの MAGNIFY ボタンを押す
- 画面拡大表示になります。
- もう一度 MAGNIFY ボタンを押すと、通常画面に戻ります。

拡大率を変更したいときは

1 リモコンの＋または－ボタンを押す
- ＋ボタンを押すと拡大率が大きく、－ボタンを押すと小さくなります。

拡大させる範囲を変更したいときは

1 ▲、▼、◀、▶ボタンを押す

お知らせ
- 入力信号によっては、画面拡大機能がはたらかない場合があります。対応信号については 50 ページをご覧ください。
- 画面拡大表示中は、音量調整はできません。
- 画面拡大表示中は、信号設定メニューは表示できません。

プレゼンテーションを演出する（つづき）

起動時および AV ミュート時などの画面を変更する

任意の画像を取り込んで起動画面（スプラッシュスクリーン）に設定することができます。また、取り込んだ画像は、メニュー設定により、AV ミュート時や無信号時のバックカラーの代わりに表示させることもできます。
- 取り込むことができるのは、「COMPUTER1」、「COMPUTER2」、「DVI」、「HDMI」入力の画像です。

設定のしかた

1 取り込みたい画像を表示させる

2 設置メニューを表示させる
- メニューの操作方法については、29 ページをご覧ください。

3 ▲、▼ボタンを押して、「イメージキャプチャー」を選ぶ

4 ENTER ボタンを押す
- 取り込みが開始され、取り込んだ画像が表示されます。
- 一度 ENTER ボタンを押すと、取り込みが完了するまで他の操作はできなくなります。
- 取り込む画像が XGA より低い解像度の場合、XGA に拡大処理してから表示されます。
- 取り込む画像が XGA より高い解像度の場合、XGA の領域のみ取り込まれます。

お知らせ
- 絵柄の細かい画像は取り込めない場合があります。その場合は、画像を変更してください。
- 入力信号によっては画像を取り込めない場合があります。対応信号については 50 ページをご覧ください。
- 起動画面は元に戻せません。（オプションメニューの RESET ALL の操作をしても工場出荷時の画面には戻りません。）起動画面を変更したいときは、別の画像を取り込んでください。
- 次の起動時より、取り込んだ画像が表示されます。表示されないときは、設置メニューのスプラッシュスクリーンの設定が「OFF」になっていないか、確認してください。（33 ページ参照）
- 取り込んだ画像を AV ミュート時に表示させたいときは、設置メニューの AV ミュートモードの設定を「IMAGE」にしてください。（33 ページ参照）
- 取り込んだ画像を無信号時に表示させたいときは、設置メニューのバックカラーの設定を「IMAGE」にしてください。（33 ページ参照）
- AV ミュート時、無信号時は、取り込み画像の表示に少し時間がかかります。

ビデオ機器の映像を見る

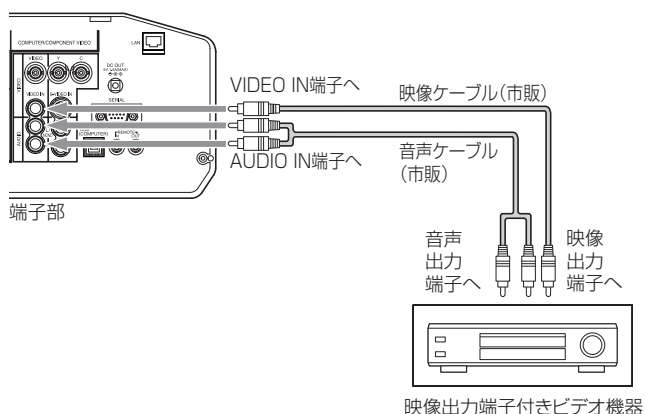
A. ビデオ機器と接続する

- 接続する機器の説明書もあわせてご覧ください。
- 接続について、くわしくは販売店にお問い合わせください。

準備

- プロジェクターおよびビデオ機器の電源が切れていることを確認する

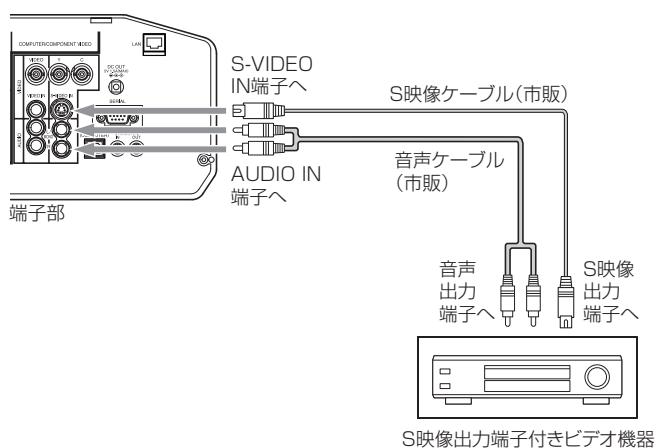
映像出力端子付きビデオ機器と接続する

映像出力端子付きビデオ機器

1 市販の映像ケーブルを本機の VIDEO IN 端子に接続する
2 ビデオ機器の映像出力端子に映像ケーブルのもう一方を接続する
3 市販の音声ケーブルを本機の AUDIO IN 端子に接続する
4 ビデオ機器の音声出力端子に音声ケーブルのもう一方を接続する

お知らせ

- ビデオ機器の映像出力端子が BNC タイプの場合、VIDEO IN(BNC)端子に接続します。
- VIDEO IN(BNC)端子と VIDEO IN(RCA)端子の両方に接続した場合、VIDEO IN(RCA)端子からの映像が優先されます。
- モノラルビデオ機器の場合は、音声ケーブルを本機の AUDIO IN 端子の白色(L)端子に接続してください。AUDIO OUT の出力が L、R 両方から出ます。

S 映像出力端子付きビデオ機器と接続する

S映像出力端子付きビデオ機器

1 市販の S 映像ケーブルを本機の S-VIDEO IN 端子に接続する
2 ビデオ機器の S 映像出力端子に S 映像ケーブルのもう一方を接続する
3 市販の音声ケーブルを本機の AUDIO IN 端子に接続する
4 ビデオ機器の音声出力端子に音声ケーブルのもう一方を接続する

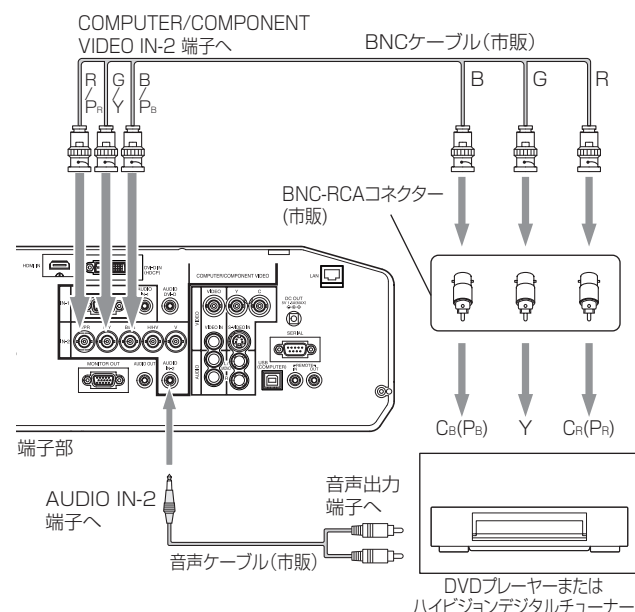
お知らせ

- ビデオ機器の S 映像出力端子が BNC(Y、C)タイプの場合、S-VIDEO IN(BNC)端子に Y、C それぞれを接続します。
- S-VIDEO IN(BNC)端子と S-VIDEO IN(S)端子の両方に接続した場合、S-VIDEO IN(S)端子からの映像が優先されます。
- モノラルビデオ機器の場合は、音声ケーブルを本機の AUDIO IN 端子の白色(L)端子に接続してください。AUDIO OUT の出力が L、R 両方から出ます。

DVD プレーヤーまたはハイビジョンデジタルチューナーと接続する

DVD プレーヤーまたはハイビジョンデジタルチューナーなど、コンポーネントビデオ出力端子を持つ機器と本機を接続するときは、COMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-2 端子に接続します。

- 接続は BNC ケーブル(3 本)を使用ください。DVD プレーヤーとの接続には BNC-RCA コネクターが必要となります。

DVDプレーヤーまたはハイビジョンデジタルチューナー

お知らせ

- DVD プレーヤーおよびハイビジョンデジタルチューナーによっては映像が正しく投写できない場合があります。
- R、G、B 出力を持つハイビジョン機器と接続するときは、信号設定メニューの COMPUTER 入力の設定を「RGB」にしてください。(35 ページ参照)

ビデオ機器の映像を見る（つづき）

HDMI 出力端子または DVI-D 出力端子付き映像機器との接続

本機は、HDMI 出力端子または DVI-D 出力端子付きの映像機器と接続することにより､高画質な映像が投写できます。また、HDCP に対応していますので、DVD プレーヤーなどから出力される暗号化されたデジタル画像を受信することができます。

- HDCP（High-band with Digital Content Protection）とは、Intel 社によってコンテンツ保護を目的に開発されたデジタル画像信号の暗号化形式の 1 つです。
- HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは、DVI をベースに発展した、コンピューター、ディスプレイ、家電機器対応のデジタル信号入出力インターフェース規格です。

お知らせ

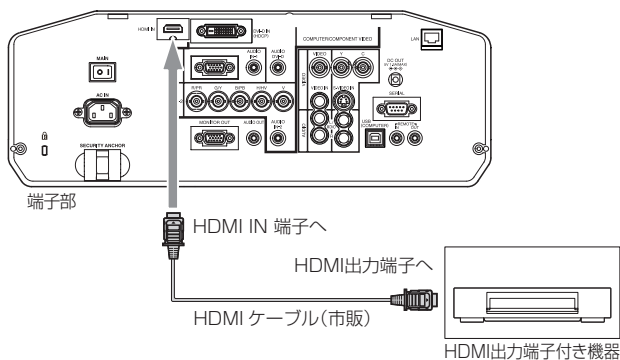
- 本機は HDMI 出力端子および DVI-D 出力端子付きの映像機器と接続することができますが、一部の機器では映像が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- 映像が出ないなど正常に動作しない場合、映像機器の取扱説明書の接続方法を確認してください。
- 長いケーブルを使用すると映像が正常に映らないことがあります。

接続例（HDMI 出力端子付き映像機器の場合）ー

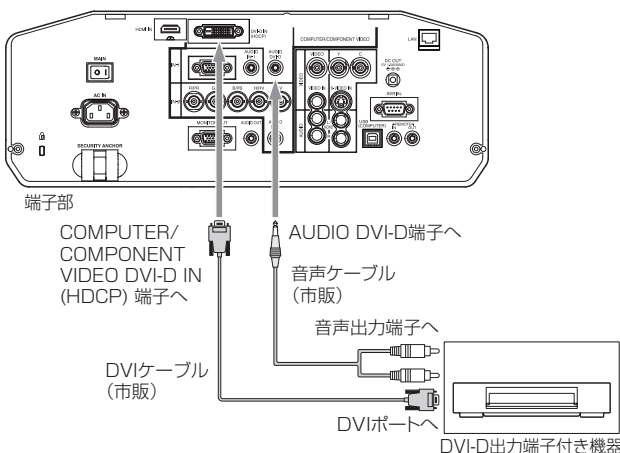
接続は、市販の HDMI ロゴの付いている HDMI ケーブルをご使用ください。

- 音声入力用に別途ケーブルの接続は必要ありません。HDMI ケーブルの接続のみで映像、音声が入力されます。

お知らせ

- HDMI の音声が出ない場合は、プロジェクターと映像機器を接続したまま映像機器の電源を一度切り、再び電源を入れると解消されることがあります。

接続例（DVI-D 出力端子付き映像機器の場合）ー

接続は、市販の DVI ケーブルをご使用ください。

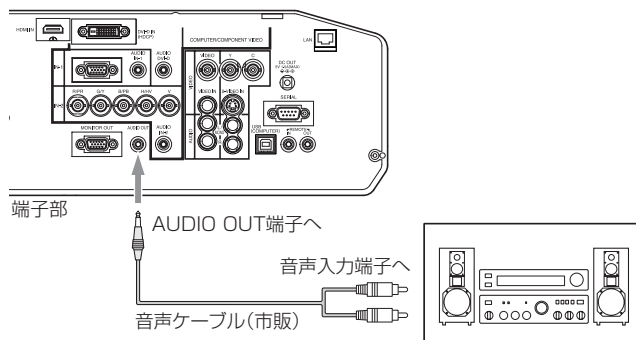
- 音声入力には AUDIO DVI-D 端子をご使用ください。

お知らせ

- コネクター部の大きさ、形状によっては正しく接続できないことがあります。
- DVI 入力時は、分周比、ファインおよび上部曲がり補正の調整はできません。

デジタル機器との接続について

本機とデジタル機器（DVD プレーヤーなど）を HDMI IN 端子または COMPUTER/COMPONENT VIDEO DVI-D IN (HDCP) 端子で接続した場合、機器によっては映像の黒レベルが沈み、黒つぶれすることがあります。これは、デジタル映像伝送の規格が 2 種類あり、黒レベルの設定がそれぞれ異なるためです。デジタル機器によっては異なる規格の信号を出力するものがあります。

- デジタル機器には、デジタル出力信号規格を切り換える機能が搭載されているものがあります。その場合は、下記のように切り換えてください。
  エクスパンドまたはエンハンスド → ノーマル
  詳細はデジタル機器の取扱説明書をご参照ください。
- デジタル機器にデジタル出力信号規格を切り換える機能が搭載されていない場合は、画質メニューのアドバンスド メニューの入力レベルの設定を「エンハンスド」にするか、映像に合わせて調整してご覧ください。

プロジェクターに接続している機器の音声を外部スピーカーから出すときは

1 市販の音声ケーブルを本機の AUDIO OUT 端子に接続する

- このとき、内部スピーカーからの音声は出力されなくなります。

2 外部スピーカーと接続されたアンプの音声入力端子に音声ケーブルのもう一方を接続する

お知らせ

- AUDIO OUT 端子からの音声について
  - 選択している入力の音声が出力されます。
  - AV MUTE ボタンを押すと、音声が消えます。
  - VOLUME（＋または－）ボタンを押すと、音量が変わります。

B. 電源コードを差し込む

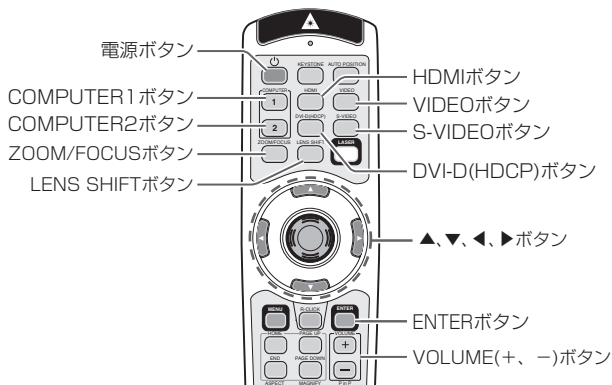
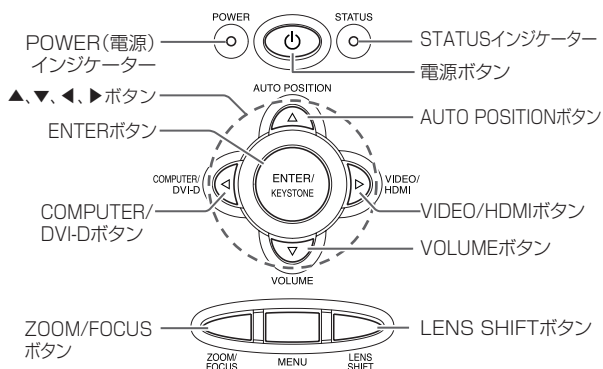
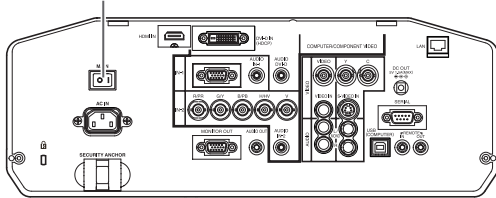
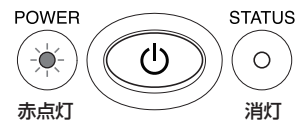
「コンピューターの映像を見る」の場合と同じです。15 ページをご覧ください。

C. ターミナルカバーを取り付ける

「コンピューターの映像を見る」の場合と同じです。16 ページをご覧ください。

D. 投写する

準備

- レンズキャップをはずす
- ビデオ機器の電源を入れる

電源を入れる

1 主電源スイッチを入れる

- POWER インジケーターが赤色に点灯します。
- 主電源スイッチを入れると、ファンが回転し、電源ボタンが動作しないときがあります。これは前回の使用時に冷却が不完全な状態で終了されたためです。ファンが停止してから電源ボタン（⏻）を押して、再度点灯させてください。

2 電源ボタン（⏻）を押す

- ランプ点灯に 1 分程度かかる場合があります。
- まれにランプ点灯に失敗することがあります。数分たってから再度電源ボタン（⏻）を押してください。
- 電源ボタン（⏻）を押したあと、ランプが安定して点灯するまで映像がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 電源を入れて 1 分後にランプ点灯が安定したあと、メニューで設定しているランプモードに切り換わります。その際、画面が乱れることがあります。
- 使用中はレンズキャップをレンズに被せないでください。
- レンズキャップ内側のアルミシートを剥がさないでください。

ピントを調整する

3 ZOOM/FOCUS ボタンを押して画面にズーム／フォーカス表示を表示させる

4 ◀、▶ボタンを押してピントを調整する

- ズーム／フォーカス表示の表示中に ENTER ボタンを押すと、粗調整／微調整の切り換えができます。粗調整にすると◀、▶ボタンを押したときのピント調整の速度が速くなり、微調整にすると遅くなります。

ビデオ機器の映像を見る（つづき）

入力を切り換える

5 【VIDEO IN 端子（または S-VIDEO IN 端子）に接続した機器の映像を見る場合】

リモコンの VIDEO（または S-VIDEO）ボタンまたは本体の VIDEO/HDMI ボタンを押して、画面に「VIDEO（または S-VIDEO)」を表示させる

【HDMI IN 端子に接続した機器の映像を見る場合】

リモコンの HDMI ボタンまたは本体の VIDEO/HDMI ボタンを押して、画面に「HDMI」を表示させる

【COMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1（または -2）端子に接続した機器の映像を見る場合】

リモコンの COMPUTER1（または 2）ボタンまたは本体の COMPUTER/DVI-D ボタンを押して、画面に「COMPUTER1（または 2)」を 表示させる

【COMPUTER/COMPONENT VIDEO DVI-D IN（HDCP）端子に接続した機器の映像を見る場合】

リモコンの DVI-D(HDCP) ボタンまたは本体の COMPUTER/DVI-D ボタンを押して、画面に「DVI」を表示させる

- 本体の VIDEO/HDMI ボタンを押すごとに、表示が「VIDEO」→「S- VIDEO」→「HDMI」→「VIDEO」と切り換わります。
- 本体の COMPUTER/DVI-D ボタンを押すごとに、表示が「COMPUTER1」→「COMPUTER2」→「DVI」→「COMPUTER1」と切り換わります。
- 「COMPUTER1（または 2)」入力時に画面がちらつくときは、リモコンの◀または▶ボタンを押してちらつきをなくしてください。（ファイン調整）
- メニュー画面表示中は、入力切換できません。

設置する

6 **所定の画面サイズが得られるように投写距離を調整して設置する**

- スクリーンから本機までの距離は、11 ページの表を目安にして設置してください。

7 **本機とスクリーンが垂直になるように設置する**

- 本機とスクリーンが垂直にならない場合は、角度調整を行ってください（12 ページ参照）。

8 **ZOOM/FOCUS ボタンを押して画面にズーム／フォーカス表示を表示させる**

9 **▲、▼ボタンを押して投写画面サイズに合わせる**

- ズーム／フォーカス表示の表示中に ENTER ボタンを押すと、粗調整／微調整の切り換えができます。粗調整にすると▲、▼ボタンを押したときのズーム調整の速度が速くなり、微調整にすると遅くなります。

10 **LENS SHIFT ボタンを押して画面にレンズシフト表示を表示させる**

11 **▲または▼ボタンを押して上下方向、◀または▶ボタンを押して左右方向を調整し、画面位置を合わせる**

- レンズシフト表示の表示中に ENTER ボタンを押すと、粗調整／微調整の切り換えができます。粗調整にすると▲、▼、◀、▶ボタンを押したときの移動量が大きくなり、微調整にすると移動量が小さくなります。
- レンズシフト動作中は、レンズ開口部に手などをはさまないよう、注意してください。
- 画面がスクリーン内に収まらない場合は、角度調整を行ってください（12 ページ参照）。さらに、必要な場合は台形補正を行ってください（13 ページ参照）。

必要に応じて、操作 3 、4 および 8 ～ 11 の設定を微調整してください。

音量を調整する

12 **リモコンの VOLUME（＋または－）ボタンを押して音量を調整する**

- 本体で操作する場合は、VOLUME ボタンを押してから、◀または▶ボタンを押して調整します。
- メニューが表示されているときは、VOLUME ボタンははたらきません。

電源を切る

13 電源ボタン（⏻）を押す

- 「電源オフ時は再度電源ボタンを押して STATUS インジケーターが消えるまでクーリングしてください」のメッセージが表示されます。
- この状態を解除するには、電源ボタン（⏻）以外のボタンを押してください。または 10 秒後にメッセージは消えます。

14 電源ボタン（⏻）をもう一度押す

- 光源ランプが消灯し、スタンバイ状態になります。このとき、STATUS インジケーターが点滅します。

15 STATUS インジケーターの緑点滅が消えるまで、約 2 分間そのまま待つ

- スタンバイ状態で約 2 分間待つのは、光源ランプを冷やすために、吸・排気ファンが回っているからです。
- プロジェクター周囲の温度が高くなると排気ファンの動作音が大きくなります。
- 冷却中はファンの動作音が大きくなりますが、故障ではありません。

16 主電源スイッチを切る

- POWER インジケーターが消灯します。
- 吸・排気ファンの回転中またはランプの点灯中に主電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりした場合は、プロジェクターを冷却するため、10 分間電源を切ったままにしておいてください。ランプを再度点灯させる場合は、電源ボタン（⏻）を押してください。ランプがすぐに点灯しない場合は、数分たってから再度電源ボタン（⏻）を押してください。それでもランプが点灯しない場合は、ランプを交換してください。
- 安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 外部からのほこりを防ぐためにレンズキャップをしてください。
- ランプ点灯後 30 分以内に主電源スイッチを切ることを繰り返すと製品のクロック機能を誤動作させる場合があります。

ダイレクトパワーオフ

本機は、電源ボタンを押さずに、主電源スイッチを切る、または電源コードを抜いて電源を切ることができます。くわしくは、18 ページをご覧ください。

静止画について

リモコンの FREEZE ボタンを押すと、映像を一時的に停止させることができます。もう一度押すと通常画面に戻ります。

- 音声は通常どおり聞こえます。
- 静止画中に FREEZE ボタン以外のボタンを押しても通常画面に戻ります（一部、戻らないボタンもあります）。
- 静止画を表示し続けた場合、残像が発生することがありますので長時間静止画を表示させないでください。

アスペクト比の切り換えついて

本機は、入力した映像のアスペクト比（縦横比）を切り換えて投写することができます。必要に応じて、リモコンの ASPECT ボタンを押してアスペクト比の設定を切り換えてください。

- アスペクト比の設定は、ASPECT ボタンを押すごとに「NORMAL」→「16：9」→「FULL」→「NORMAL」と切り換わります。
  - 「NORMAL」
    入力信号に合わせて自動的に最適なアスペクト比が選ばれます。（通常はこれを選びます。）
  - 「16：9」
    スクイーズ（左右に圧縮）記録された DVD の映像などを 16：9 に引き伸ばして表示したいときに選びます。
  - 「FULL」
    入力信号の種類にかかわらず、投写映像がフルサイズ（1024 × 768 画素）で表示されます。
- アスペクト比の切り換えは、クイックメニューまたはオプションメニューの「画角」で行うこともできます。
- オプションメニューの「画角」ではさらに、「16：9」の設定について以下の設定も行えます。（「16：9 ↵」の設定を選んだ状態で ENTER ボタンを押すと、以下の設定メニューが表示されます。）

- 「表示位置」
  画面内での映像の表示位置を「上」、「中央」、「下」から選ぶことができます。
- 「動作モード」
  入力信号によって映像を 16：9 で表示させるかどうかを設定することができます。
  - 「全信号」　：入力信号の種類にかかわらず、常に 16：9 で表示します。
  - 「ビデオ信号のみ」：ビデオ機器からの信号を入力している場合のみ、16：9 で表示します。

- 長時間 16：9 表示で使用したあと 4：3 表示で使用すると、画面の上下にマスク部分の痕跡が残る場合があります。このような場合は、テクニカルサポートセンターにご相談ください。

メニューを使って設定する

本機では、画面上にメニューを表示させてさまざまな設定を行います。

メニューの表示モードと種類について

メニューの表示モードには、クイックメニューモードと詳細メニューモードがあります。
それぞれのモードで表示されるメニューは、以下の通りです。

クイックメニューモードで表示されるメニュー

使用頻度の高い設定項目を集めた「クイックメニュー」と本機の状態をお知らせする「情報メニュー」のみ、表示されます。

クイックメニュー （30 ページ）

情報メニュー （31 ページ）

詳細メニューモードで表示されるメニュー

詳細な設定が行えるよう、次の 5 つのメニューが表示されます。

画質メニュー （32 ページ）

設置メニュー （33 ページ）

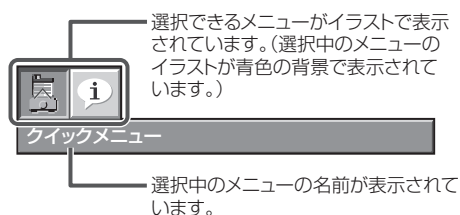
オプションメニュー （34 ページ）

信号設定メニュー （35 ページ）

情報メニュー （31 ページ）

メニューの基本の操作方法

1 MENU ボタンを押す

● クイックメニューモードで、メニュー選択バーが表示されます。

2 ◀、▶ボタンを押して希望のメニューを選ぶ

3 ENTER ボタン（または▼ボタン）を押す

● 選んだメニューが表示されます。

選択中の項目は、赤色の文字で表示されています。

クイックメニュー

カラーエンハンサー	◀	AUTO ▶
コントラスト	◀	0 ▶
ブライト	◀	0 ▶
色温度	◀	標準 ▶
シャープネス	◀	0 ▶
ランプモード	◀	標準 ▶
画角	◀	NORMAL ▶
色の濃さ	◀	0 ▶
ユーザーメニュー選択	◀	色の濃さ ↵ ▶
詳細メニュー		OK ↵

4 ▲、▼ボタンを押して、設定したい項目を選ぶ

クイックメニュー

カラーエンハンサー	◀	AUTO ▶
コントラスト	◀	0 ▶
ブライト	◀	0 ▶

5 ◀、▶ボタンを押して希望の設定に変更する

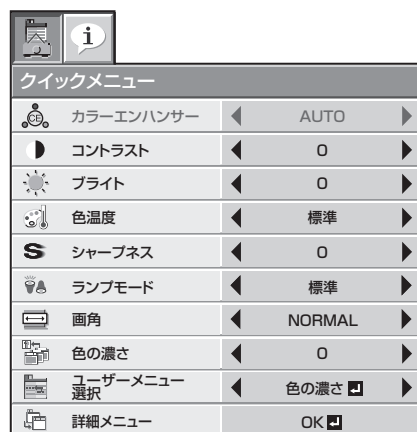
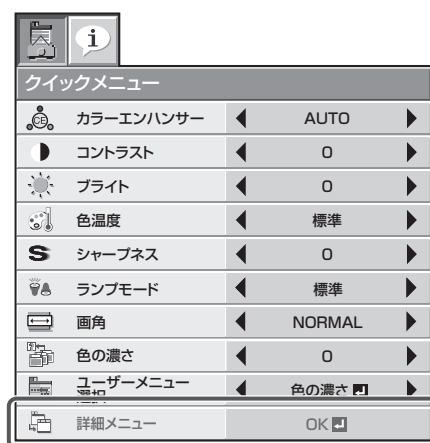
6 設定が終わったら、MENU ボタンを数回押してメニューを消す

お知らせ

● 設定名の後に「↵」マークが付いている場合は、ENTER ボタンを押すと、設定した内容が実行されたり、新たな設定画面に移行したりします。

● ボタンを押してもメニューが切り換わらなくなることがあります。その場合は本機が誤動作している可能性があります。一度電源プラグをコンセントから抜き、10 分以上たってからもう一度電源プラグをコンセントに接続してください。

クイックメニューモードから詳細メニューモードへの切り換えかた

1 左の 1 ～ 3 の操作をしてクイックメニューを表示させる

2 ▲、▼ボタンを押して「詳細メニュー」を選ぶ

3 ENTER ボタンを押す

● これで、詳細メニューモードに切り換わります。(5 つのメニューが選択できる状態になります。)

● 必要に応じて、左の 2 ～ 5 と同様に操作して設定を行います。

4 メニューを消すときは、MENU ボタンを数回押す

メニューを使って設定する（つづき）

メニューの設定内容

クイックメニューモードで表示されるメニュー

■ クイックメニュー

設定項目	設定	はたらき
カラーエンハンサー	AUTO	入力信号に適した設定になります。（通常はこれを選びます。）
	プレゼンテーション	明るくメリハリのある映像になります。
	標準	自然な映像になります。
	シアター	映画向けにしっとりした映像に設定されます。
	sRGB	色再現性を重視した画像になります。
	USER	画質メニュー内の「カラーエンハンサー」の「USER ↵」で設定したガンマカーブ、BrilliantColor ™の設定、色の濃さ、色合いが適用されます。（32 ページ参照）
コントラスト	－30 ～＋30	映像のコントラストを調整します。（36 ページ参照）
ブライト	－30 ～＋30	映像の明るさを調整します。（36 ページ参照）
色温度	標準、低、高	あらかじめ設定された色温度の中から選択します。
	USER	画質メニュー内の「色温度」の「USER ↵」で設定した色温度になります。（32 ページ参照）
シャープネス	－5 ～＋5	映像の鮮鋭度を調整します。（36 ページ参照）
ランプモード	標準	通常はこれを選びます。
	低	ランプの明るさを抑えるモードです。動作音が小さくなり、光源ランプの交換に至るまでの時間が長くなります。
画角	NORMAL	入力信号に合わせて自動的に最適なアスペクト比が選ばれます。（通常はこれを選びます。）
	16：9	スクイーズ（左右に圧縮）記録された DVD の映像などを 16：9 に引き伸ばして表示したいときに選びます。オプションメニュー内の「画角」で「16：9 ↵」を選んだときは、映像の表示位置や、この設定を有効にする入力信号の設定が行えます。（27 ページ参照）
	FULL	入力信号の種類にかかわらず、投写映像をフルサイズ（1024x768 画素）で表示します。
（ユーザーメニュー）※	※	※：一段下の「ユーザーメニュー選択」で選んだ設定項目とその設定が表示されます。
ユーザーメニュー選択	色の濃さ ↵、色合い ↵、スタンバイモード ↵、反転表示 ↵、メニュー位置 ↵、シネマモード ↵、SCART 入力 ↵、言語選択 ↵	一段上に表示する設定項目を選択します。設定内容については、以下のページをご覧ください。 ●色の濃さ、色合い……32 ページ ●スタンバイモード、反転表示……33 ページ ●メニュー位置、シネマモード、SCART 入力、言語選択……34 ページ
詳細メニュー	OK ↵	メニューの表示モードを詳細メニューモードに切り換えます。

お知らせ

- カラーエンハンサーの設定を「sRGB」にしているときは、色温度、色の濃さ、色合いの調整はできません。
- カラーエンハンサーの設定を切り換える際、映像が乱れることがあります。

クイックメニューモード・詳細メニューモード共通で表示されるメニュー

■ 情報メニュー

設定項目	内容
ランプ時間（低モード換算）	ランプモードを「低」にした場合の時間で換算したランプ使用時間が表示されます。 ● ランプモードを「標準」にして使用した場合、実際に使用した時間よりも長く表示されます。 ● ランプ使用時間が 10 時間以内の場合、0 Hが表示されます。10 時間を超えると、1時間単位で表示されます。 ● ランプ使用時間が 3000 時間を超えた場合、バーは黄色になります。3800 時間を超えた場合、赤色になります。
入力端子	現在投写中の入力端子名が表示されます。
解像度	現在投写されている映像信号の解像度が表示されます。
垂直周波数	現在投写されている映像信号の垂直周波数が表示されます。
水平周波数	現在投写されている映像信号の水平周波数が表示されます。
同期信号	現在投写されている映像信号の同期信号形式が表示されます。

メニューを使って設定する（つづき）

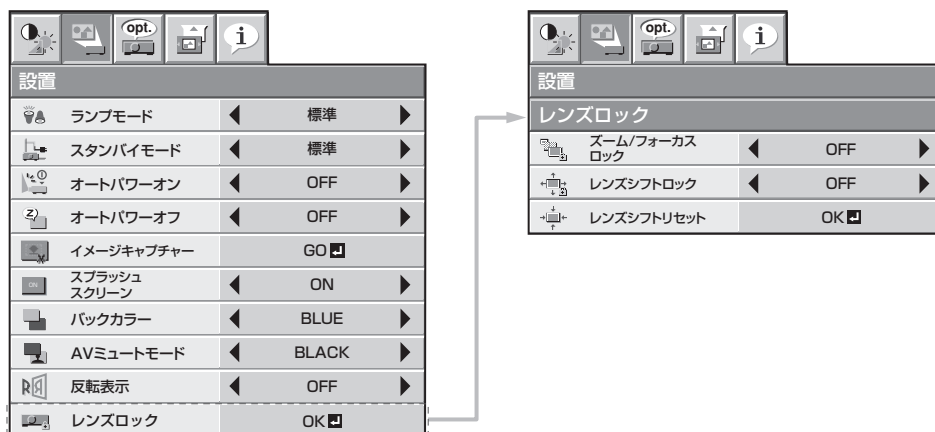
詳細メニューモードで表示されるメニュー

■ 画質メニュー

設定項目	設定	はたらき
カラーエンハンサー	AUTO	入力信号に適した設定になります。（通常はこれを選びます。）
	プレゼンテーション	明るくメリハリのある映像になります。
	標準	自然な映像になります。
	シアター	映画向けにしっとりした映像に設定されます。
	sRGB	色再現性を重視した画像になります。
	USER ↵	ガンマカーブ、BrilliantColor ™の設定、色の濃さ、色合いをお好みに設定できます。（37 ページ参照）
コントラスト	－30 ～ ＋30	映像のコントラストを調整します。（36 ページ参照）
ブライト	－30 ～ ＋30	映像の明るさを調整します。（36 ページ参照）
色温度	標準、低、高	あらかじめ設定された色温度の中から選択します。
	USER ↵	独自の色温度に調整します。（36 ページ参照）
色の濃さ	－10 ～ ＋10	映像の色の濃さを調整します。（36 ページ参照）
色合い	－10 ～ ＋10	映像の色合いを調整します。（36 ページ参照）
シャープネス	－5 ～ ＋5	映像の鮮鋭度を調整します。（36 ページ参照）
アドバンスド メニュー	OK ↵	以下の設定を行うためのアドバンスド メニューを表示します。
ノイズリダクション	ON、OFF	ノイズが多い映像信号を入力した場合に、映像のノイズやざらつきを少なくすることができます。
CTI	ON、OFF	色境界部分の色にじみを改善します。
入力レベル	－5～＋5	アナログ信号入力時： 接続する機器によっては、映像信号が大きいもの（白つぶれする）や小さいもの（暗くなる）があります。このメニューでアナログ映像信号の大きさを調整することができます。
	エンハンスド、ノーマル	デジタル信号入力時： 接続するデジタル機器（DVD プレーヤーなど）のデジタル映像信号規格に合わせて設定します。黒つぶれや黒浮きがある場合に切り換えます。

お知らせ

- カラーエンハンサーの設定を「sRGB」にしているときは、色温度、色の濃さ、色合いの調整はできません。
- カラーエンハンサーの設定を切り換える際、映像が乱れることがあります。
- COMPUTER1、COMPUTER2、DVI または HDMI 入力が選ばれているとき、色の濃さ、色合いの調整はできません。
- TV50（PAL、SECAM）信号入力時は色合いの調整はできません。
- デジタル信号入力時、接続機器からの信号が YC_BC_R/YP_BP_R で出力されている場合、入力レベルは選択できません。

■ 設置メニュー

設定項目	設定	はたらき
ランプモード	標準	通常はこれを選びます。
	低	ランプの明るさを抑えるモードです。動作音が小さくなり、光源ランプの交換に至るまでの時間が長くなります。
スタンバイモード	標準	電源スタンバイ中に LAN 経由で本機の制御を行う場合は、この設定を選びます。
	低	電源スタンバイ中に LAN 経由で本機の制御を行わない場合は、この設定を選びます。LAN 端子の機能が停止し、電源スタンバイ時の消費電力が低減されます。
オートパワーオン	OFF	通常はこれを選びます。
	ON	電源プラグをコンセントに接続したとき、自動的に電源が入ります。天吊り時などに設定します。
オートパワーオフ	OFF	オートパワーオフがはたらきません。
	5分、10分、15分、30分、60 分	映像信号が未入力のとき、設定した時間になると自動的に電源が切れます。
イメージキャプチャー	GO ↵	スプラッシュスクリーン（起動画面）を変更するときに選択します。（22 ページ参照）
スプラッシュスクリーン	ON	電源を入れたとき、スプラッシュスクリーン（起動画面）を表示します。
	OFF	スプラッシュスクリーン（起動画面）を表示しません。
バックカラー	BLUE、BLACK	無信号時の背景の色を選択します。
	IMAGE	無信号時の背景にスプラッシュスクリーン（起動画面）を表示します。
AV ミュートモード	BLACK、IMAGE	AV MUTE ボタンを押したとき、真っ黒な画面を表示するか、スプラッシュスクリーン（起動画面）を表示するか選択します。
反転表示	OFF	床置きで正面から映像を見るときに選びます。通常はこれを選びます。
	左右	床置きでスクリーンの裏側から映像を見るときに選びます。
	上下	天吊りして、スクリーンの裏側から映像を見るときに選びます。
	上下左右	天吊りして、正面から映像を見るときに選びます。
レンズロック	OK ↵	以下の設定を行うためのレンズロックメニューを表示します。
ズーム / フォーカスロック	ON、OFF	ズームとフォーカスをロックするかどうかを切り換えます。
レンズシフトロック	ON、OFF	レンズシフトをロックするかどうかを切り換えます。
レンズシフトリセット	OK ↵	レンズ位置を工場出荷時の位置に戻します。

お知らせ

- ランプモードは、電源を入れたときは「標準」モードで起動します。「低」モードに設定している場合は、約 1 分で「低」モードに切り換わります。
- ランプモードを切り換えたとき、映像がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- ランプモードは頻繁に切り換えないでください。
- オプションメニューのパスワードロックのスプラッシュスクリーンを設定すると、設置メニューのイメージキャプチャーとスプラッシュスクリーンははたらきません。
- バックカラーか AV ミュートモードで「IMAGE」を選択し、長時間スプラッシュスクリーン（起動画面）を表示すると画面に痕跡が残ることがあります。このような場合は、テクニカルサポートセンターにご相談ください。

メニューを使って設定する（つづき）

■ オプションメニュー

設定項目	設定	はたらき
画角	NORMAL	入力信号に合わせて自動的に最適なアスペクト比が選ばれます。（通常はこれを選びます。）
	16：9 ↵	スクイーズ（左右に圧縮）記録された DVD の映像などを 16：9 に引き伸ばして表示したいときに選びます。ENTER ボタンを押すと、映像の表示位置や、この設定を有効にする入力信号の設定が行えます。（27 ページ参照）
	FULL	入力信号の種類にかかわらず、投写映像がフルサイズ（1024 × 768 画素）で表示されます。
パスワードロック	映像表示 ↵、キー操作 ↵、スプラッシュスクリーン ↵	パスワードロック機能のモード切り換え、パスワードロック機能の設定、解除に使います。（40 ページ参照）
メニュー位置	画面左上、画面右下	メニューの表示位置を切り換えます。
シネマモード	AUTO	フィルム映像信号を入力したとき、自動的にフィルムモード処理を行います。 通常は AUTO に設定します。 画面にちらつきが出たり、コマ落ちなどの不自然な動作をしたり、斜め線のガタツキが大きい場合は、フィルムまたはビデオモードのいずれか適する設定に切り換えてください。
	フィルム	強制的にフィルムモードに設定します。
	ビデオ	フィルムモード処理は行いません。
信号判別	AUTO、NTSC、PAL、SECAM、4.43NTSC、PAL-M、PAL-N、PAL-60	ビデオ信号のカラー方式を選択します。通常は AUTO に設定します。AUTO に設定していて正常に色が付かないときは、入力信号に合わせたカラー方式に設定します。
セットアップ	AUTO	自動的にセットアップ設定を切り換えます。
	OFF	国内盤の LD や DVD の映像を見るときに選択します。
	3.75%、7.5%	米国盤の LD や DVD の映像を見るときに選択します。
SCART 入力	OFF、ON	欧州などで使用されている SCART 端子付きの機器と接続するときは、ON を選択します。COMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1 端子からの入力時のみ有効です。通常は OFF を選択します。
言語選択	日本語、English、Español、Deutsch、Français、Italiano、中文、한국어、РУССКИЙ、PORTUGUÊS、SVENSKA、POLSKI	メニューなどの画面表示に使われる言語を選びます。
RESET ALL	OK ↵	メニューの設定を工場出荷時の値に戻します。（言語選択、パスワードロック、イメージキャプチャーの設定を除く）

お知らせ

- SCART 入力の設定を「ON」にしているとき、SCART 信号を入力していた場合は外部のモニターへ出力はできません。
- SCART 入力の設定を「ON」にしているとき、通常のコンピューター信号は映りません。
- SCART 端子付きの機器の中には、このプロジェクターと互換性がないものがあります。
- RESET ALL には、少し時間がかかることがあります。

■ 信号設定メニュー

※外部信号が入力されていないと調整できません。（設定方法の詳細は 38、39 ページをご覧ください。）

設定項目	設定	はたらき
メモリー選択	AUTO、メモリー 1 ↵、メモリー 2 ↵	記録された解像度（メモリー記録）の設定を選択します。設定が記録されていないときは選べません。通常は、コンピューターからの信号に合わせて自動的に適切な信号形式を設定する AUTO が選択されます。 ENTER ボタンを押すと記録された設定内容を消去できます。
解像度（メモリー記録 ↵）		現在の解像度を表示します。ENTER ボタンを押すと解像度（メモリー記録）メニューを表示し、その設定内容を変更することができます。変更した設定内容はメモリー 1 またはメモリー 2 に記録することができます。
垂直周波数	–	現在投写中の映像信号の垂直周波数が表示されます。
水平周波数	–	現在投写中の映像信号の水平周波数が表示されます。
水平画素数	640 ～ 1920	現在投写中の映像信号の水平画素数が表示されます。設定内容を変更し、実行を選んで ENTER ボタンを押すと、指定した解像度で映像を自動調整します。調整した結果は、メモリー 1 またはメモリー 2 に記録することができます。
垂直ライン数	350 ～ 1200	現在投写中の映像信号の垂直ライン数が表示されます。設定内容を変更し、実行を選んで ENTER ボタンを押すと、指定した解像度で映像を自動調整します。調整した結果は、メモリー 1 またはメモリー 2 に記録することができます。
実行	OK ↵	ENTER ボタンを押すと自動調整が始まります。調整終了後に、メッセージが表示され、メモリー 1 またはメモリー 2 に記録することができます。
中止	OK ↵	現在の解像度の設定変更を中止して、信号設定メニューに戻ります。
水平位置	0 ～ 999	映像の表示位置を左右に動かします。
垂直位置	0 ～ 999	映像の表示位置を上下に動かします。
ファイン	0 ～ 31	映像にちらつきやぼけが出たときに、画面を見ながら調整します。
分周比	0 ～ 9999	映像に幅広の縞模様が出たときに、画面を見ながら調整します。
COMPUTER 入力	AUTO	自動的に最適な値に設定します。通常はこれを選びます。
	RGB	R、G、B 出力端子を持つハイビジョン機器と接続するときは、こちらを選びます。
	YC_BC_R/YP_BP_R	Y、C_B、C_R コンポーネントビデオ出力端子を持つ DVD プレーヤーまたは Y、P_B、P_R コンポーネントビデオ出力端子を持つハイビジョンデジタルチューナーなどと接続するときに設定します。DVD プレーヤーなどから 480p（525p）信号を入力するときは、こちらを選びます。
オーバースキャン	100 ～ 90%	投写映像の表示領域を調整します。
上部曲がり補正	OFF	上部曲がりに対する調整を行いません。
	ON ↵	画面に上部曲がりが行ったときに調整します。
詳細設定	OK ↵	以下の調整をするための詳細設定メニューを表示します。
クランプ位置	1 ～ 255	投写画面が白くつぶれたり、黒くつぶれたりするときに調整します。
クランプ幅	1 ～ 63	投写画面が黒くつぶれるときに調整します。
垂直同期	AUTO	通常はこちらを選びます。
	OFF	映像の動きが不自然なときに選びます。
LPF	ON、OFF	プログレッシブフィルター（39 ページ）をはたらかせるかどうかを選択します。通常は OFF を選択します。
SHUTTER(U)	0 ～ 38	画面の上にノイズが出る場合に調整します。
SHUTTER(L)	0 ～ 38	画面の下にノイズが出る場合に調整します。
SHUTTER(LS)	0 ～ 63	画面の左にノイズが出る場合に調整します。
SHUTTER(RS)	0 ～ 63	画面の右にノイズが出る場合に調整します。

映像を調整する

映像の明るさを調整する（コントラスト、ブライト）

メニューを使って映像の明るさに関する調整をします。

● メニューの操作方法については、29 ページをご覧ください。

1 クイックメニューまたは画質メニューを表示させる

2 ▲、▼ボタンを押して「コントラスト」または「ブライト」を選ぶ

コントラスト	◀ 0 ▶	
ブライト	◀ 0 ▶	

3 ◀、▶ボタンを押して調整する

コントラスト.........▶ボタンを押すごとに、映像が明るくなり、メリハリが出ます。◀ボタンを押すごとに、映像が暗くなり、しっとりとします。

ブライト.................▶ボタンを押すごとに、映像が明るくなります。◀ボタンを押すごとに、映像が暗くなります。

色を調整する（色の濃さ、色合い）

メニューを使って映像の色に関する調整をします。

● メニューの操作方法については、29 ページをご覧ください。

1 クイックメニューまたは画質メニューを表示させる

2 ▲、▼ボタンを押して「色の濃さ」または「色合い」を選ぶ

色の濃さ	◀ 0 ▶	
色合い	◀ 0 ▶	

3 ◀、▶ボタンを押して調整する

色の濃さ.................▶ボタンを押すごとに、色が濃くなります。◀ボタンを押すごとに、色が薄くなります。

色合い.....................▶ボタンを押すごとに、肌色が緑がかります。◀ボタンを押すごとに、肌色が紫がかります。

お知らせ

● 「色合い」は、ビデオ入力時のみ表示されます。

● 「色合い」は、NTSC、4.43NTSC 時のみはたらきます。

映像をくっきりさせたり、ソフトにしたりする（シャープネス）

メニューを使って映像の鮮鋭度に関する調整をします。

● メニューの操作方法については、29 ページをご覧ください。

1 クイックメニューまたは画質メニューを表示させる

2 ▲、▼ボタンを押して「シャープネス」を選ぶ

3 ◀、▶ボタンを押して調整する

白の色合いを調整する（色温度の詳細設定）

メニューを使って色温度（白の色合い）の調整をします。

● メニューの操作方法については、29 ページをご覧ください。

1 画質メニューを表示させる

2 ▲、▼ボタンを押して「色温度」を選ぶ

3 ◀、▶ボタンを押して「USER ⏎」を選ぶ

4 ENTER ボタンを押す

● 色温度の詳細メニューが表示されます。

色温度－USER	
コントラスト R	◀ 0 ▶
コントラスト G	◀ 0 ▶
コントラスト B	◀ 0 ▶
ブライト R	◀ 0 ▶
ブライト G	◀ 0 ▶
ブライト B	◀ 0 ▶

5 ▲、▼ボタンを押して設定したい項目を選ぶ

6 ◀、▶ボタンを押して設定する

7 操作 5 、6 を繰り返して設定する

8 MENU ボタンを 3 回押す

色温度について

同じ白色といっても、いろいろの程度があります。白さの程度を表す方法のひとつに色温度があります。色温度の低い白色は赤みがかった白色となり、色温度の高い白色は青みがかった白色となります。本機では、この色温度の設定をコントラスト青とコントラスト赤の数値を変化させることにより、設定します。

● 色温度を高くするには
コントラスト B(青)の数値を大きく、コントラスト R(赤)の数値を小さく設定します。

● 色温度を低くするには
コントラスト B(青)の数値を小さく、コントラスト R(赤)の数値を大きく設定します。

独自の明るさと色合いを設定する（カラーエンハンサーの詳細設定）

メニューを使って独自の明るさと色合いのバランスを設定します。

● メニューの操作方法については、29 ページをご覧ください。

1 画質メニューを表示させる

2 ▲、▼ボタンを押して「カラーエンハンサー」を選ぶ

3 ◀、▶ボタンを押して「USER ⏎」を選ぶ

4 ENTER ボタンを押す

● カラーエンハンサーの詳細メニューが表示されます。

カラーエンハンサー－USER	
ガンマモード	◀ ダイナミック ▶
BrilliantColor™	◀ 2 ▶
RGB-COLOR	◀ 10 ▶
RGB-TINT	◀ 10 ▶

5 ▲、▼ボタンを押して設定する項目を選ぶ

ガンマモード

最適なガンマに設定します。

- ダイナミック ……コンピューター映像に適した設定になります。
- ナチュラル ………ビデオ映像に適した設定になります。
- ディテール ………映画、音楽ライブを見るときなど比較的輝度を抑えたいときに選びます。

BrilliantColor™

BrilliantColor™は米国テキサスインスツルメンツ社のBrilliantColor™テクノロジーを使用しており、優れた色彩を提供しながらさらに高輝度の画像を実現します。◀ボタンを押して値を小さくすると効果が弱くなり、▶ボタンを押して値を大きくすると効果が強くなります。（0 に設定すると、BrilliantColor™ははたらきません。）

RGB-COLOR

映像の色の濃さを設定できます。▶ボタンを押すごとに、色が濃くなります。◀ボタンを押すごとに、色が薄くなります。

RGB-TINT

映像の色合いを設定できます。▶ボタンを押すごとに、肌色が緑がかります。◀ボタンを押すごとに、肌色が紫がかります。

6 ◀、▶ボタンを押して設定する

お知らせ

● カラーエンハンサーは、リモコンの CE ボタンを押しても調整できます。

1 リモコンの CE ボタンを押す

● カラーエンハンサー調整用の画面が右上に表示されます。

2 表示したまま◀、▶ボタンを押して「USER ⏎」を選ぶ

3 ENTER ボタンを押す

4 ▲、▼ボタンを押して、ガンマモードまたは BrilliantColor™、RGB-COLOR、RGB-TINT の項目を選ぶ

5 選択後、◀、▶ボタンを押して設定する

映像を調整する（つづき）

コンピューター映像の調整

本機は、コンピューターからの映像の信号に合わせて自動的に適切な信号形式に設定しますが、コンピューターの種類や表示画像によっては、正しく投写できない場合があります。そのときは以下の図の流れに従い、調整してください。

メニュー画面を使ったコンピューター映像の調整のしかた

次のような症状のときは、以下のように調整してください。

● **投写画面が左右にずれる**
信号設定メニューの水平位置を調整します。◀ボタンを押すごとに、映像が右にずれます。▶ボタンを押すごとに、映像が左にずれます。

● **投写画面が上下にずれる**
信号設定メニューの垂直位置を調整します。◀ボタンを押すごとに、映像が下にずれます。▶ボタンを押すごとに、映像が上にずれます。

● **投写画面がちらつく、ぼやける**
信号設定メニューのファインを調整します。

● **幅広のしま模様が出る**
信号設定メニューの分周比を調整します。

● **画面が白く（または黒く）つぶれる**
信号設定メニューの詳細設定メニューの中のクランプ位置またはクランプ幅を調整します。

● **画面の左右にノイズなどが出る**
信号設定メニューの中の詳細設定メニューの SHUTTER（LS）または SHUTTER（RS）を調整します。

● **画面の上下にノイズなどが出る**
信号設定メニューの中の詳細設定メニューの SHUTTER（U）または SHUTTER（L）を調整します。

● **画面に上部曲がりが起こる**
信号設定メニューの上部曲がり補正の設定を変更します。設定を「ON↵」にして ENTER ボタンを押し、「開始」および「終了」の値を調整して最も上部曲がりを少なくします。

● **映像の動きが不自然**
信号設定メニューの中の詳細設定メニューの垂直同期を調整します。通常は「AUTO」に設定してください。
※ 信号設定メニューの中の詳細設定メニューの設定は、通常、変更しないでください。

簡単な画面位置調整のしかた（AUTO POSITION ボタンで調整できない場合）

水平位置の調整

1 水平位置を調整して映像の左端を合わせ、分周比を調整して右端を合わせる
2 操作 1 を繰り返し、水平位置の調整を行う

垂直位置の調整

3 垂直位置を調整して映像の上端を合わせる

LPF（プログレッシブフィルター）について

ご使用になる DVD プレーヤーによっては画面の縦、横方向に薄いスジ状のノイズが現れる場合があります。この場合、LPF を ON にすることによりプログレッシブフィルターがはたらき、これらのスジ状のノイズを軽減することができます。ただし、映像の鮮鋭度は弱くなります。

パスワードを設定する

本機はパスワードロック機能により、お子様による誤操作防止および特定者以外による操作を制限することなどができます。パスワードロック機能には、次の３つのモードがあります。

映像表示

電源を入れたとき、起動画面（スプラッシュスクリーン）が表示されたままになります。パスワードを入力することにより、通常の画面に切り換わります。

キー操作

本体の電源ボタン以外のボタン操作ができなくなります（リモコンのボタン操作はできます）。お子様による誤操作防止や特定者以外による操作の制限ができます。

スプラッシュスクリーン

設置メニューのスプラッシュスクリーンおよびイメージキャプチャーの設定ができなくなります。このときスプラッシュスクリーンは自動的に「ON」に設定されます。

パスワードロックの設定のしかた

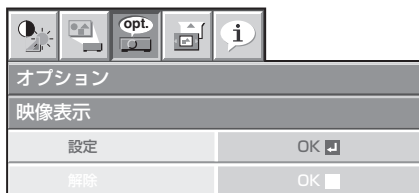
1 **オプションメニューを表示させる**

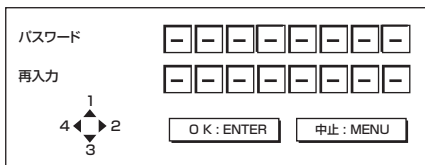
2 **▲または▼ボタンを押してパスワードロックを選択する**

3 **◀または▶ボタンを押してモード（「映像表示」、「キー操作」または「スプラッシュスクリーン」）を切り換える**

- すでにパスワードが設定されているときは、モードは切り換わりません。そのときは、ENTER ボタンを押して、パスワードロック機能を解除してから設定し直してください。

4 **ENTER ボタンを押す**

- パスワードロック画面（設定用）が表示されます。

5 **ENTER ボタンを押す**

- パスワード入力画面が表示されます。

6 **▲、▶、▼または◀ボタンを押して４～８桁のパスワードを入力する**

（▲=1、▶=2、▼=3、◀=4）

7 **ENTER ボタンを押す**

8 **同様に再入力欄にパスワードと同じ数字を設定する**

9 **ENTER ボタンを押す**

- 再入力欄の数字とパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。
- パスワード設定を取り消したいときは、MENU ボタンを押します。

パスワードロックの解除のしかた

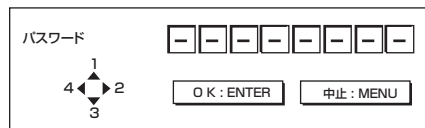
1 **オプションメニューを表示させる**

2 **▲または▼ボタンを押してパスワードロックを選択する**

3 **ENTER ボタンを押す**

- パスワードロック画面（解除用）が表示されます。

4 **ENTER ボタンを押す**

- パスワード入力画面が表示されます。

5 **▲、▶、▼または◀ボタンを押して４～８桁のパスワードを入力する**

（▲=1、▶=2、▼=3、◀=4）

6 **ENTER ボタンを押す**

- 誤ったパスワードを入力した場合は、エラーメッセージが表示されます。
- パスワード設定を取り消したいときは、MENU ボタンを押します。

パスワードを忘れたときは

本体操作部のMENU ボタンとENTER ボタンを同時に押して、パスワードを解除してください。

コンピューターによる監視と制御

本機はコンピューターによるプロジェクターの監視および制御をLAN回線経由で行うことができます。

- 監視および制御には、付属品のCD-ROM内のソフト「プロジェクターコントロールデバイスインストーラー＊（対応OS: Windows® 2000、Windows® XP、Windows Vista®）」をインストールする必要があります。くわしくは、CD-ROM内の「LAN制御UTILITY操作説明書」をご覧ください。
  ＊：デバイスコントローラーの機能
  - プロジェクターのIPアドレス設定
  - パスワード／表示言語設定／LAN制御設定
  - PJLink® 認証設定（Telnet機能）
  - Webブラウザーによる状態制御／監視ツール ProjectorViewの起動

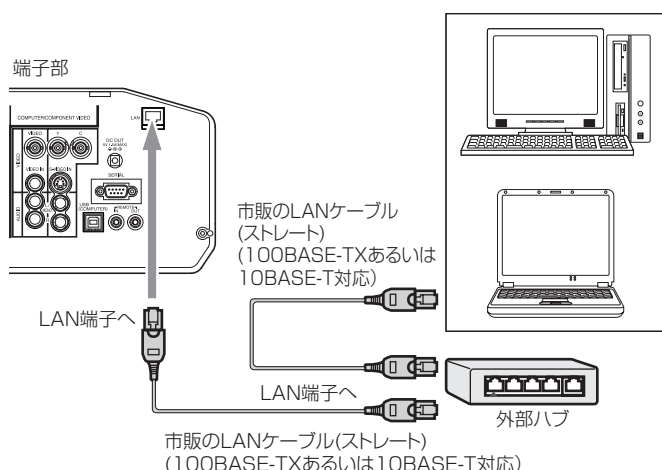
主な機能

- ProjectorView
  Webブラウザーによりプロジェクターの監視と制御を行う
- PJLink®
  プロジェクター制御用の標準プロトコルで、異なるメーカー間、機種間であっても同一のアプリケーションを用いてプロジェクターの監視・制御を行う

PJLink® について

- PJLink® 機能を使用するには、別途、PJLink® アプリケーションソフトが必要です。
- PJLinkの仕様に関しては、社団法人　ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMIA）のWebサイトを参照してください。
  URL　http://pjlink.jbmia.or.jp/
- 本プロジェクターは、JBMIA PJLinkクラス1の規格に適合しています。PJLinkクラス1で定義されているすべてのコマンドに対応しており、PJLink標準仕様バージョン1.0で適合を確認しています。

接続

LANケーブルは、ストレート結線でカテゴリー5対応のものを使用してください。

お知らせ

- 静電気を帯びた手でLAN端子に触れると、静電気の放電により、故障の原因となることがあります。LAN端子およびLANケーブルの金属部分には触れないようにしてください。

付属のCD-ROMについて

付属のCD-ROMには､アプリケーションソフト｢プロジェクターコントロールデバイスインストーラー｣､｢LAN制御UTILITY操作説明書｣およびAcrobat® Reader™が収録されています。

LAN制御UTILITY操作説明書をご覧になるには ――

以下の手順に従ってご覧ください。

1. 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに入れる
2. CD-ROM“XD3200”を開く
3. “Manual.pdf”のアイコンをダブルクリックする

お知らせ

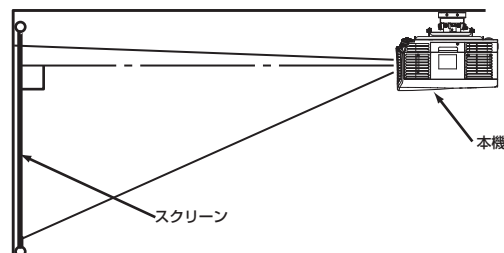
- LAN制御UTILITY操作説明書をご覧になるためには、コンピューターにAcrobat® Reader™がインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、以下の手順に従ってインストールしてください。

Acrobat® Reader™をインストールするには ――

1. 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに入れる
2. CD-ROM“XD3200”を開く
3. “ACROBAT_READER”フォルダーを開く
4. インストール用ソフトのアイコンをダブルクリックする
5. 画面の指示に従ってインストールする

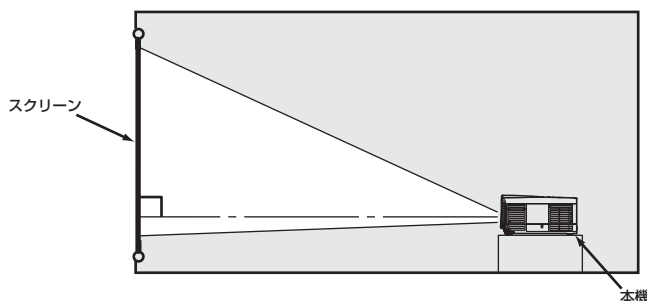
設置工事を依頼するときは

天吊りして正面から映像を見る場合

天吊りにする場合は、別売の専用天吊り金具（49 ページ参照）を使用してください。また、設置工事は必ず教育を受けた専門の工事業者に依頼してください。くわしくは、三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

お知らせ

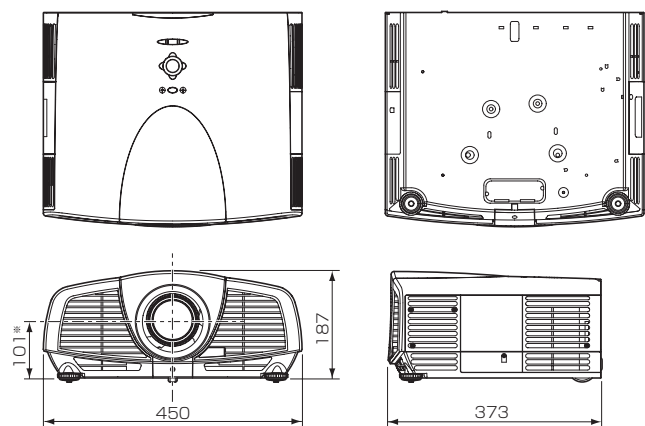
- 当社製以外の天吊り金具ならびに天吊り金具設置環境の不具合による製品の損傷などについては、保証期間中であっても当社は責任を負いかねますのでご注意ください。
- 天吊りの場合、クイックメニューまたは設置メニューの反転表示の設定を「上下左右」にしてください。くわしくは 33 ページをご覧ください。
- ブレーカーなどを設置するよう、工事業者に依頼してください。ご使用にならないときは、必ずブレーカーなどで主電源を落としておいてください。
- 天吊りの場合、床置き時に比べて画面の明るさが暗くなることがありますが、故障ではありません。
- 排気口にエアコンなどの風が直接当たるような場所に設置しないでください。故障の原因になることがあります。
- 本体の排気口から温風が出ますので、火災報知器の近くには設置しないでください。

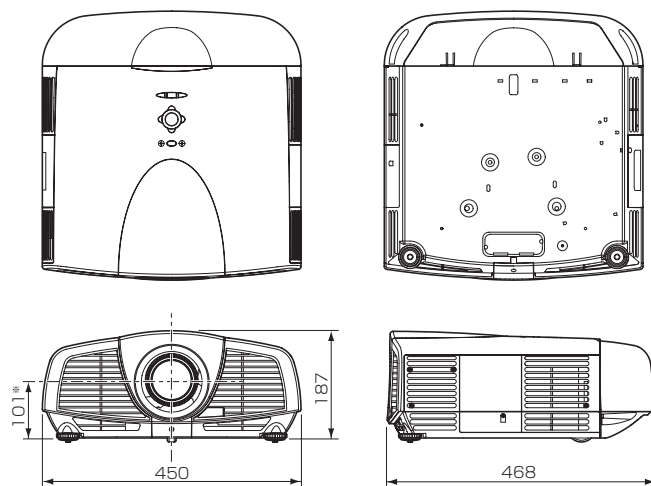
半透過性のスクリーンに投写し、裏側から映像を見る場合

設置工事は、必ず教育を受けた専門の工事業者に依頼してください。くわしくは、三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

お知らせ

- 裏側から映像を見る場合、クイックメニューまたは設置メニューの反転表示の設定を「左右」にしてください。くわしくは 33 ページをご覧ください。

寸法図（参考）

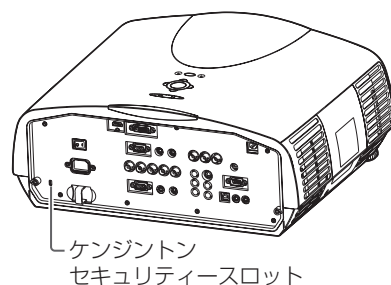
単位は mm

ターミナルカバー装着時

※：レンズ中心位置の寸法は、出荷時の値です。

こんな機能もあります

ケンジントンセキュリティースロットについて

ケンジントンセキュリティースロットは、Kensington 社セキュリティーケーブルに対応しています。セキュリティースロットおよびセキュリティーケーブルについては、日本総輸入代理店 七陽商事株式会社までお問い合わせください。連絡先は、以下の通りです。

七陽商事株式会社 情報機器事業部
103-0007 東京都中央区日本橋浜町 2-55-7 ナナヨウビル
TEL：03-3663-7740
FAX：03-3669-2367

注）連絡先等は、変更になる可能性があります。ご了承ください。

お掃除のしかた

お手入れをする前には必ず主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
本体やレンズを掃除する場合、可燃性の溶液（ベンジンやシンナーなど）やスプレーを使用しないでください。ランプ点灯の際、可燃成分に引火し、火災や故障の原因となることがあります。

本体をきれいにする

柔らかい布で軽く汚れをふき取る

- 汚れがひどいときは水にうすめた中性洗剤に浸した布をよくしぼって拭いて、乾いた布で仕上げてください。
- 殺虫剤をかけたり、ベンジンやシンナーなどで拭いたり、ゴムやビニール製品を長時間接触させると、変質したり、塗料がはげる原因となります。

レンズをきれいにする

市販のレンズ手入れ用品（ブローワーブラシなど）でほこりや汚れを取る

- レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

ターミナルカバーをきれいにする

ターミナルカバー内は異物やほこりがたまりやすいので、そうじはこまめに行ってください。

光源ランプを交換する

本機には、DMD の映像を投写するために光源ランプが内蔵されています。
本光源ランプは消耗部品であり、使用中に切れたり、輝度が低下する場合があります。このような場合、早めに新しい光源ランプと交換してください。光源ランプは、必ず別売りの LVP-XD3200 専用の光源ランプをご使用ください。光源ランプのご購入は、お買い上げの販売店またはテクニカルサポートセンター・ご相談窓口にご依頼ください。

LVP-XD3200 用光源ランプ
形名：VLT-XD3200LP

⚠警告

- 光源ランプを交換する前に、必ず主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。主電源スイッチを切らずに交換を行うと、感電の原因となることがあります。
- 光源ランプの固定ネジを本機内部に落とさないようにしてください。また、本機内部に金属片や燃えやすいものなどを入れないでください。内部に異物が入ったまま使うと、感電や火災の原因となります。入ったものが取れないときは、異物の回収を三菱電機テクニカルサポートセンターにご依頼ください。
- 光源ランプは確実に取り付けてください。取り付けが不十分な場合、光源ランプは点灯しません。また、火災の原因にもなります。
- 取り出した光源ランプは決して振ったり、目の上より高い位置に持って行ったりしないでください。ガラス片が飛び散ったり、落下したりして目に入るなどのけがの恐れがあります。
- 使用した直後、ランプカバーは高温になっていますので、光源ランプの交換はしないでください。やけどなどの原因となります。電源ボタンで電源を切り、光源ランプ消灯後、冷却のための吸・排気ファンが止まるまで約 2 分間お待ちください。そして主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、1 時間以上たって充分に冷えてから交換を始めてください。
- 高圧水銀ランプが破裂した場合、本体内部にガラス片が散乱している可能性があります。清掃やランプ交換をお客様ご自身でなされる場合、光源ランプの取っ手を持って行ってください。ガラス片でけがの恐れがあります。三菱電機テクニカルサポートセンターに光源ランプの交換と内部の点検を依頼することをおすすめします。
- ランプ交換を天吊り状態の高い位置で行う場合は、三菱電機テクニカルサポートセンターにご依頼ください。

⚠注意

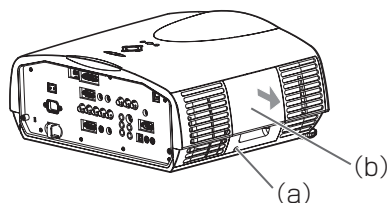
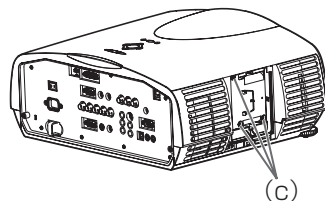
本機は光源ランプの使用時間が 3000 時間※1を超えると STATUS インジケーターが点滅し、パワーオンするたびに画面上に 1 分間メッセージが表示されます。3800 時間※1を超えると以後 20 時間※1おきに画面上に 1 分間ランプ交換メッセージ（LAMP EXCHANGE）が表示されます。また、光源ランプの使用時間が 4000 時間※1※2を超えると自動的に電源が切れ、光源ランプを交換して使用時間をリセットするまで使用することができなくなります。

- 光源ランプは、交換以外の目的では取り出さないでください。故障の原因となることがあります。
- 本機の光源には、内部圧力の高い水銀ランプが使われています。高圧水銀ランプは、衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などで大きな音を伴って破裂したり、不点灯状態となって寿命が尽きたりする特性があります。また、高圧水銀ランプの破裂や不点灯に至るまでの時間は、高圧水銀ランプの個体差や使用条件によって大きな差があり、使用開始後すぐに破裂することがあります。
- 交換時期を超えてお使いになると、破裂する可能性が一段と高くなります。ランプ交換の指示が出た場合、光源ランプが正常に点灯している状態でも速やかに新しい光源ランプと交換してください。
- 高圧水銀ランプが破裂したとき、ランプボックス部の中や外にガラスの破片が飛び散ったり、光源ランプ内部のガスが本体の排気口から出たりすることがあります（白いガス）。高圧水銀ランプ内部のガスには水銀が含まれています。吸い込んだり、目に入ったり、口に入ったりしないようご注意ください。万一、吸い込んだり、目に入ったり、口に入ったりした場合には、速やかに医師にご相談ください。
- 使用済みのランプは、自治体で定められた条例もしくは規則に従って廃棄してください。
- 光源ランプは専用の VLT-XD3200LP をご使用ください。他のランプを使用されると故障の原因となることがあります。

※1：ランプモードを「低」にした場合の時間（「標準」にした場合の時間は短くなります）。
※2：ランプモードを「低」にした場合の時間（「標準」にした場合の時間は 2000 時間）。

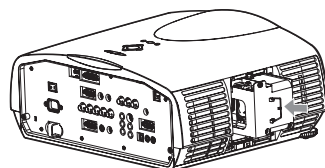
床置き時のランプ交換のしかた

1 主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く

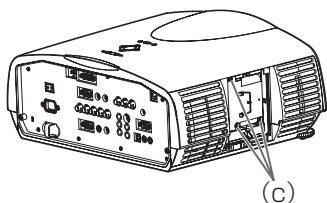
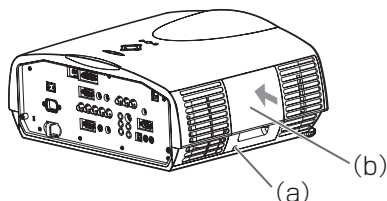
2 ランプカバー止めネジ（a）をプラスドライバーでゆるめ、ランプカバー（b）を本体から取り外す

3 ランプボックスの固定ネジ 3 本（c）をプラスドライバーでゆるめる

4 取っ手を引き上げる

5 取っ手を持って、ランプを本体から抜き出す

- ランプボックスを本体から抜き出す際は、ゆっくりと行ってください。電球部が破裂している場合は、急に抜き出すとガラス片が飛び散る恐れがあります。
- 取り出した光源ランプに水などをかけたり、お子さまの手の届くところや燃えやすい物の近くに置かないでください。やけどやけがの原因となります。

6 新しいランプの取っ手を持って、本体の穴の形状にランプ形状の方向を合わせて、ランプを奥に当たるまで差し込む

7 取っ手を収納部に押し込む

- 取っ手が確実にロックされていることを確認してください。

8 固定ネジ３本（c）をプラスドライバーでしっかりと締める

9 ランプカバー（b）を本体に差し込み、ランプカバー止めネジ（a）をプラスドライバーでしっかりと締める

- ランプカバーがはずれていると、電源が入りません。

ランプ使用時間をリセットする

10 電源プラグをコンセントに差し込み、主電源スイッチを入れる

11 本体操作部の◀、▶ボタンおよび電源ボタン（⏻）を同時に押す

- ３つのボタンが同時に押されない場合、リセットされないことがあります。
- 正しくリセットされた場合、STATUS インジケーターが赤色に２回点滅します。点滅したことを確認してください。
- ランプ使用時間が 4000 時間※を超えていた場合、ランプを交換しても、使用時間をリセットするまでは光源ランプを点灯させることはできません。
- ランプを交換していないときは使用時間をリセットしないでください。

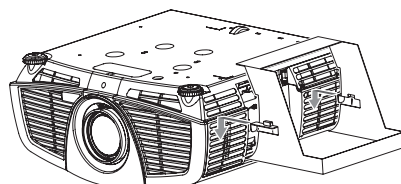
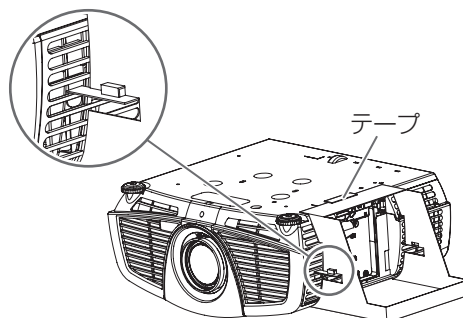
※：ランプモードを「低」にした場合の時間（「標準」にした場合の時間は2000 時間）。

天吊り時のランプ交換のしかた

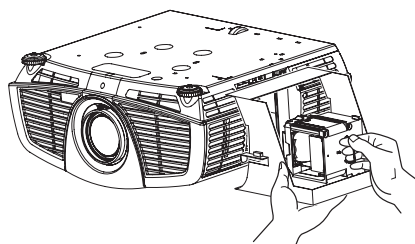
天吊りしているプロジェクターからランプを取り外すときは、ガラスの破片等から身を守るため、プロジェクターに付属のランプ交換用トレーをお使いください。

- ランプ交換用トレーの組み立てかたについては、トレーに付属の説明書をお読みください。

1 「床置き時のランプ交換のしかた」の操作 1 ～ 4 を実行する

2 ランプ交換用トレーをプロジェクターに取り付ける

3 ランプ交換用トレーを、トレーに付属のテープを使ってプロジェクターに固定する

4 プロジェクターを固定しながら、取っ手を持ってランプボックスを引き出す

- ランプボックスを取り出す際にガラスの破片等がこぼれないように、ランプ交換用トレーを固定してください。
- ランプの落下の恐れがあるので、ランプをランプ交換用トレーの上に直接載せないでください。

5 ランプ交換用トレーと一緒にランプを取り出す

6 「床置き時のランプ交換のしかた」の操作 6 ～ 11 を実行する

故障かなと思ったら

修理を依頼される前に、次のことをお調べになって、それでも不具合があるときは使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、三菱電機テクニカルサポートセンターにご連絡ください。

映像が映らない

<table>
<tr><th>現象</th><th>確認／処置</th></tr>
<tr><td>電源が入らない</td><td>● インジケーターの点灯のしかたを確認する。
<table>
<tr><th>POWER</th><th>STATUS</th><th>処置</th></tr>
<tr><td>○
消灯</td><td>○
消灯</td><td>• 電源コードを本機に接続する。
• 電源プラグをコンセントに接続する。
• 主電源スイッチを入れる。
• ランプカバーを取り付ける。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">赤点灯</td><td>○
消灯</td><td>• 吸気口、排気口をふさいでいる物があれば取り除き、以下の操作を行ってください。
1. 主電源スイッチを切る。
2. 本体が冷めているのを確認する。
3. 主電源スイッチを入れる。
4. 電源ボタンを押す。</td></tr>
<tr><td>○ ⇄
オレンジ点滅</td><td>• 吸気口、排気口をふさいでいる物があれば取り除く。
• 暖房の吹き出しが、排気口にかからないようにする。</td></tr>
<tr><td>○ ⇄
緑点滅</td><td>• STATUS インジケーターの緑点滅が消えてから、電源ボタンを押す。
• ファンの動作中に主電源スイッチを切ると、次に主電源スイッチを入れたとき、約 2 分間点灯できなくなる場合があります。
• 光源ランプを消灯した後、約 2 分間は再点灯できません。
• 数回電源ボタンを押す。</td></tr>
<tr><td>赤点灯</td><td>• 光源ランプを交換する。（光源ランプの寿命に達しています。）</td></tr>
<tr><td>⇄
赤 / 緑点滅</td><td>点灯
または
○ ⇄
点滅</td><td>• 電源プラグをコンセントから抜き、三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>映像が映らない</td><td>● AV MUTE ボタンを押して AV ミュートを解除する。
● ランプ点灯に 1 分程度かかる場合があります。
● まれにランプ点灯に失敗することがあります。数分たってから再度点灯させてください。
● 主電源スイッチを入れたとき、ファンが回転し、電源ボタンが動作しないときがあります。これは前回の使用時に冷却が不完全な状態で終了されたためです。ファンが停止してから電源ボタンを押して、再度点灯させてください。
● クイックメニューまたはオプションメニューの SCART 入力の設定を「OFF」にする。（34 ページ参照）
● 吸気口が汚れていないか確認する。
● 外部機器と接続しているケーブルが断線していないか確認する。
● 延長ケーブルを使用している場合は、付属のケーブルと差し替えて正常に映像が表示されていることをご確認ください。正常に映像が表示される場合は、延長ケーブルと RGB 信号増幅器を合わせてご使用ください。
● レンズキャップをはずす。</td></tr>
<tr><td>電源が切れる</td><td>● 吸気口、排気口がふさがれているときになることがあります。
（このとき、STATUS インジケーターはオレンジ点滅しています。）
→吸気口、排気口をふさいでいる物を取り除いてから以下の操作を行う。
1. 吸・排気ファンが止まるまで待つ（STATUS インジケーターが消灯するまで待つ）。
2. 主電源スイッチを切る。
3. 10 分以上待つ。
4. 主電源スイッチを入れる。
5. 電源ボタンを押す。
● STATUS インジケーターが赤点灯しているときは、ランプ交換の表示です。光源ランプを交換してください。
● オートパワーオフが設定されていませんか。
● ランプが劣化した場合、点灯後しばらくしてから消灯することがあります。</td></tr>
<tr><td>パスワード入力画面が表示される</td><td>● オプションメニューのパスワードロック機能で「映像表示」が設定されています。
→パスワードを入力する、またはプロジェクターの管理者に問い合わせる。</td></tr>
<tr><td>「入力信号がありません」が表示される</td><td>● 接続した機器の電源を入れる。または、接続した機器が故障していないか確認する。
● 外部機器の信号が出力されているか確認する。（特にノートタイプのコンピューターの場合）
● 外部機器と接続しているケーブルが断線していないか確認する。
● 外部機器と接続している端子が正しい端子に接続されているか確認する。
● 接続した機器の入力が正しく選ばれているか確認する。
● RGB 接続時に延長ケーブルを使用している場合は、付属のケーブルと差し替えて正常に映像が表示されていることを確認してください。正常に映像が表示される場合は、延長ケーブルと RGB 信号増幅器を合わせて使用してください。</td></tr>
</table>

映像がおかしい

現象	確認／処置
映像がゆれる 画面位置がおかしい	● 外部機器と接続しているケーブルが断線しかかっていないか確認する。 ● 外部機器と接続ケーブルのプラグを接続端子の奥までしっかりと接続する。 ● AUTO POSITION ボタンを押す。 ● コンピューターの種類によっては、まれに規格外の信号が出力される場合があるので信号設定メニューで調整する。（35 ページ参照）
映像がひずむ	● 本機と投写面が垂直になるように調整する。（12 ページ参照）
映像が暗い	● クイックメニューまたは画質メニューのブライトの調整をする。（36 ページ参照） ● ランプを交換する（44、45 ページ参照）。
映像がぼやける	● フォーカスを合わせる。（17、25 ページ参照） ● レンズをきれいに拭く。 ● リモコンの◀または▶ボタンを押してちらつきをなくす。 ● クイックメニューまたは画質メニューのブライトおよびコントラストの調整をする。（36 ページ参照） ● 本機と投写面が垂直になるように調整する。（12 ページ参照）
映像に光る点が見える 映像に黒い点が見える	● DLP® プロジェクター特有の現象です。故障ではありません。 （一部、常時点灯または常時不点灯の画素が存在する場合がありますが、故障ではありません。99.99% 以上は有効な画素数です。）
映像に細かい縞模様が見える	● スクリーンとの干渉によるもので、故障ではありません。スクリーンを交換するか本機のフォーカスを少しずらしてみてください。
映像（および音声）が乱れる	● 外部機器との接続ケーブルのプラグを接続端子の奥までしっかりと接続する。 ● 妨害電波を発信している機器から遠ざける。 ● 入力信号によっては、台形補正を行うと画像が正常に表示されない場合がありますが、故障ではありません。この場合は、台形補正量が少なくなるように再調整してご使用ください。
色合いがおかしい	● 信号設定メニューの COMPUTER 入力の設定が正しく設定されているか確認する。（35 ページ参照） ● 外部機器と接続しているケーブルが断線していないか確認する。
色合いが異なる	● 本機を 2 台以上投写し、比較した場合、色合いが異なることがありますが、故障ではありません。 ● テレビやパソコンのモニターなどと比較した場合、色再現範囲の違いなどにより色合いが異なることがありますが、故障ではありません。
コンピューターの動画部分だけが表示できない	● コンピューターの問題です。コンピューターメーカーにお問い合わせください。
映像がにじむ	● コンピューターの出力解像度をプロジェクターの解像度に合わせる。（50 ページ参照） コンピューターの出力解像度の変更については、コンピューターメーカーにお問い合わせください。 ● 台形補正を使用すると、映像によっては画像や文字がにじんで見えることがあります。このような場合、台形補正を使用せずにお使いください。
映像の周囲にノイズが見える	● DVD 等の映像によっては、記録されている映像の周囲にノイズがある場合があります。その場合は、信号設定メニューのオーバースキャンの設定値を下げてください。（35 ページ参照）

故障かなと思ったら（つづき）

その他

現象	確認／処置
排気口から温風が出る	● 本機内部を冷却して出てくる温風です。熱く感じられることがありますが、故障ではありません。
外部音声出力が出ない	● 音量設定が小さくなっていないか確認する。 ● HDMI ケーブルを使って接続している場合は、接続している機器の音声出力の設定を PCM 出力にする。
メニュー設定ができない	● ノイズなどの影響で、本機内部のマイコンが誤動作していることがあります。 →一度主電源スイッチを切り、10 分以上たってからもう一度主電源スイッチを入れる。
画面上に「温度異常！！」が表示（点滅）される	● 周辺温度が高くなると表示されます。高温状態が続くと、光源ランプが消えます。 →周辺温度が高くなる原因を取り除く。 ● 吸気口、排気口をふさいでいると表示されることがあります。その状態を続けると光源ランプが消えます。 →吸気口、排気口をふさいでいるものを取り除く。
⃠マークが表示される	● 動作しない操作を行ったときに表示されます。故障ではありません。
リモコンが効かない、効きにくい	● 乾電池が消耗していないか確認する。（2 ページ参照） ● リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの光が直接当たっていないか確認する。（10 ページ参照） ● リモコンの操作範囲から外れていませんか。（10 ページ参照）
本体操作部のボタン（電源ボタンを除く）がはたらかない	● オプションメニューのパスワードロック機能で「キー操作」が設定されています。 →設定を解除する。
異音がする	● カラーホイールが高速回転しているため、まれに金属音がすることがありますが故障ではありません。

ランプ交換のあとで以下の症状が出たときは、まず、次のことをお調べください。

現象	確認／処置
電源が入らない	● ランプカバーをきちんと取り付ける。 ● ランプ使用時間をリセットする。（45 ページ参照）
STATUS インジケーターが点滅する	● ランプ使用時間をリセットする。（45 ページ参照）

（仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。予めご了承ください。）

項目			仕様
形名			LVP-XD3200
表示方式			DLP®（単板 DMD）
光学方式			時分割色分離・合成方式
表示素子	サイズ		0.7 形 DMD × 1（枚）、アスペクト比 4：3
	画素数		786,432 画素（1024 × 768）× 1 枚
投写レンズ	焦点距離		f=24.5 ～ 33.1mm
	F 値		F2.0 ～ F2.4
光源			高圧水銀ランプ　330W
画面サイズ（投写距離）			最小 40 形～最大 300 形（投写距離 1.4 ～ 10.6m）
音声出力			10W、モノラル
スピーカー			口径 φ 4.5cm、個数 1
表示可能解像度	コンピューター信号入力時		最大入力解像度：1600 × 1200 ドット（圧縮表示） パネル表示解像度：1024 × 768 ドット
	ビデオ信号入力時		表示可能信号：NTSC、4.43NTSC、PAL、SECAM、PAL-N、PAL-M、PAL-60 NTSC 水平解像度：600TV 本（S端子入力時）
	コンポーネントビデオ信号入力時		表示可能信号：480i、480p、576i、576p、720p、1080i、1080p パネル表示解像度：1024 × 768 ドット
コンピューター入出力	コンピューター入力	映像入力	ミニ D-Sub15 ピン（RGB、YP_BP_R、YC_BC_R 信号対応）、1 系統 BNC 端子× 5（RGB、YP_BP_R、YC_BC_R 信号対応）、1 系統 • RGB：0.7Vp-p 75 Ω /1.0Vp-p 75 Ω（同期負極性） • Y：1.0Vp-p 75 Ω（同期負極性） • P_BP_R/C_BC_R：0.7Vp-p 75 Ω • HD/CS：TTL レベル（負または正極性） • VD：TTL レベル（負または正極性）
			DVI-D、1 系統
		音声入力	φ 3.5mm ステレオミニジャック、3 系統 • 350mVrms 10kΩ以上
	コンピューター出力	映像出力	ミニ D-Sub15 ピン（RGB/YP_BP_R/YC_BC_R 出力）、1 系統 • コンピューター入力と同一の信号形式で出力
		音声出力	φ 3.5mm ステレオミニジャック、1 系統（ビデオ出力と共用）
ビデオ入出力	ビデオ入力	映像入力	RCA 端子 /BNC 端子、1 系統 • 1.0Vp-p 75 Ω（同期負極性） S 端子 /BNC 端子、1 系統 • Y：1.0Vp-p 75 Ω（同期負極性） • C：0.286Vp-p 75 Ω（バースト信号）
		音声入力	RCA 端子× 2（L、R）、2 系統 • 350mVrms 10kΩ以上
	HDMI 入力	映像・音声入力	HDMI、1 系統（音声は PCM にのみ対応）
	ビデオ出力	音声出力	φ 3.5mm ステレオミニジャック、1 系統（コンピューター出力と共用）
制御入出力 / その他			REMOTE IN：1 系統、 REMOTE OUT：1 系統 シリアル端子（D-Sub 9 ピン、RS-232C 準拠）：1 系統 USB 端子（B タイプ）コンピューター制御用：1 系統 LAN 端子（RJ-45）：1 系統 ＤＣ出力端子：５Ｖ　最大 1.5A：１系統
使用温度（使用湿度）			使用温度範囲：5 ～ 35℃（使用湿度範囲：30 ～ 90%）
電源			AC100V、50/60Hz
消費電力			4.5A　430W 待機時:2W（スタンバイモード「標準」時）／ 0.4W（スタンバイモード「低」時）
外形寸法（幅×高さ×奥行き）			450mm×187mm×373mm（本体のみ）※本体突起部含まず 450mm×187mm×468mm（ターミナルカバー装着時）※本体突起部含まず
質量			約 10.3kg（本体のみ）　約 10.5kg（ターミナルカバー装着時）

「JIS C 61000-3-2 適合品」
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

別売品

スクリーン	（形名 SCR-A50P）	オプションレンズ	（形名 OL-XD2000SZ）	光源ランプ	（形名 VLT-XD3200LP）
	（形名 SCR-A60P）		（形名 OL-XD2000LZ）	天井用取付金具ベース	（形名 BR-GB1※）
	（形名 SCR-A80P）		（形名 OL-XD2000TZ）	天井用取付けアダプター	（形名 BR-XD3200S※）
			（形名 OL-XD2000FR）	高天井用ポール	（形名 BR-XD400P）

※：BR-GB1、BR-XD3200S はセットでご使用ください。単独では天井へ取り付けられません。

仕様（つづき）

接続できる信号の種類

信号モード	解像度（H × V）	水平周波数（kHz）	垂直周波数（Hz）	通常表示（H × V）	
TV60, 480i (525i)	720 × 480	15.73	59.94	1024 × 768	*1
TV50, 576i (625i)	720 × 576	15.63	50.00	1024 × 768	*1
1080i 60 (1125i 60)	1920 × 1080	33.75	60.00	1024 × 576	*1, *2, *3
1080i 50 (1125i 50)	1920 × 1080	28.13	50.00	1024 × 576	*1, *2, *3
480p (525p)	720 × 480	31.47	59.94	1024 × 768	*1, *2, *3
576p (625p)	720 × 576	31.25	50.00	1024 × 768	*1, *2, *3
720p 60 (750p 60)	1280 × 720	45.00	60.00	1024 × 576	*1, *2, *3
720p 50 (750p 50)	1280 × 720	37.50	50.00	1024 × 576	*1, *2, *3
1080p 60 (1125p 60)	1920 × 1080	67.50	60.00	1024 × 576	*1, *2, *3
1080p 50 (1125p 50)	1920 × 1080	56.25	50.00	1024 × 576	*1, *2, *3
CGA70	640 × 400	31.47	70.09	1024 × 640	
CGA84	640 × 400	37.86	84.13	1024 × 640	
CGA85	640 × 400	37.86	85.08	1024 × 640	
VGA60	640 × 480	31.47	59.94	1024 × 768	*2, *3
VGA72	640 × 480	37.86	72.81	1024 × 768	
VGA75	640 × 480	37.50	75.00	1024 × 768	
VGA85	640 × 480	43.27	85.01	1024 × 768	
SVGA56	800 × 600	35.16	56.25	1024 × 768	
SVGA60	800 × 600	37.88	60.32	1024 × 768	*2, *3
SVGA72	800 × 600	48.08	72.19	1024 × 768	
SVGA75	800 × 600	46.88	75.00	1024 × 768	
SVGA85	800 × 600	53.67	85.06	1024 × 768	
SVGA95	800 × 600	59.97	94.89	1024 × 768	
XGA60	1024 × 768	48.36	60.00	1024 × 768	*2, *3
XGA70	1024 × 768	56.48	70.07	1024 × 768	
XGA75	1024 × 768	60.02	75.03	1024 × 768	
XGA85	1024 × 768	68.68	85.00	1024 × 768	
SXGA70a	1152 × 864	63.85	70.01	1024 × 768	
SXGA75a	1152 × 864	67.50	75.00	1024 × 768	
SXGA85a	1152 × 864	77.49	85.06	1024 × 768	
WXGA60	1280 × 768	47.78	59.87	1024 × 614	*2
WXGA60a	1280 × 800	49.70	59.81	1024 × 640	*2
WXGA60b	1360 × 768	47.71	60.02	1024 × 578	
WXGA60c	1366 × 768	47.50	59.75	1024 × 576	
WXGA+60	1440 × 900	55.94	59.89	1024 × 640	
SXGA60b	1280 × 960	60.00	60.00	1024 × 768	
SXGA75b	1280 × 960	75.00	75.00	1024 × 768	
SXGA85b	1280 × 960	85.94	85.00	1024 × 768	
SXGA60	1280 × 1024	63.98	60.02	960 × 768	*2, *3
SXGA75	1280 × 1024	79.98	75.02	960 × 768	
SXGA85	1280 × 1024	91.15	85.02	960 × 768	
SXGA+60	1400 × 1050	63.98	60.02	1024 × 768	
	1400 × 1050	65.32	59.98	1024 × 768	*2, *3
SXGA+75	1400 × 1050	82.28	74.87	1024 × 768	
WSXGA+60	1680 × 1050	65.29	59.95	1024 × 640	
MAC13	640 × 480	35.00	66.67	1024 × 768	
MAC16	832 × 624	49.72	74.55	1024 × 768	
MAC19	1024 × 768	60.24	75.02	1024 × 768	
HP75	1024 × 768	62.94	74.92	1024 × 768	
HP72	1280 × 1024	78.13	72.00	960 × 768	
SUN66a	1152 × 900	61.85	66.00	984 × 768	
SUN76a	1152 × 900	71.81	76.64	984 × 768	
SUN66	1280 × 1024	71.68	66.68	960 × 768	
SUN76	1280 × 1024	81.13	76.11	960 × 768	
SGI72	1280 × 1024	76.92	72.30	960 × 768	
SGI76	1280 × 1024	82.01	76.00	960 × 768	
UXGA60	1600 × 1200	75.00	60.00	1024 × 768	*2, *3

*1： PinP、画面拡大機能、イメージキャプチャーには対応しません。
*2： COMPUTER/COMPONENT VIDEO DVI-D IN (HDCP) 端子も対応しています。
*3： HDMI IN 端子も対応しています。

お知らせ

- 本機の最大解像度は 1024 × 768 ドットです。これ以上の解像度の場合は、本来の解像度は得られません。
- SYNC ON G 対応の信号は、映像が緑っぽくなることがあります（このとき、詳細設定メニューのクランプ位置またはクランプ幅を調整してください）。
- SYNC ON G 対応の信号は、画面が少し揺れることがあります。
- 表に載っていない解像度と周波数のときは、接続するコンピューターの解像度を変更することにより、対応できる解像度と周波数に変更できる場合があります。
- 1080i はハイビジョン信号を表します。
- ハイビジョン信号などを RGB 信号で入力するときは、信号設定メニューの COMPUTER 入力の設定を「RGB」にしてください。
- ハイビジョン信号を表示しているとき、インターレス信号の構造上、画質が劣化します。
- 480p の 4 線（R、G、B、CS*）出力機器および 5 線（R、G、B、H、V）出力機器について本機は対応していません。
  *：Composite Sync

索引

端子について

SERIAL 端子（9 ピン）

PIN No.	名 称	I/O
1	–	–
2	TXD	入力
3	RXD	出力
4	–	–
5	GND	–
6	–	–
7	–	–
8	–	–
9	–	–

COMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1 端子（ミニ D-Sub 15 ピン）

PIN No.	仕 様	PIN No.	仕 様
1	R(RED)/PR/CR	9	DDC 5V
2	G(GREEN)/Y	10	GND
3	B(BLUE)/PB/CB	11	GND
4	GND	12	DDC Data
5	GND	13	HD/CS
6	GND	14	VD
7	GND	15	DDC Clock
8	GND		

HDMI IN 端子

PIN No.	仕 様	PIN No.	仕 様	PIN No.	仕 様
1	TMDS Data2+	8	TMDS Data0 Shield	15	SCL
2	TMDS Data2 Shield	9	TMDS Data0-	16	SDA
3	TMDS Data2-	10	TMDS Clock+	17	DDC Ground
4	TMDS Data1+	11	TMDS Clock Shield	18	+5 V Power
5	TMDS Data1 Shield	12	TMDS Clock -	19	Hot Plug Detect
6	TMDS Data1-	13	CEC		
7	TMDS Data0+	14	–		

MONITOR OUT 端子（ミニ D-Sub 15 ピン）

PIN No.	仕 様	PIN No.	仕 様
1	R(RED)/PR/CR	9	–
2	G(GREEN)/Y	10	GND
3	B(BLUE)/PB/CB	11	–
4	–	12	–
5	GND	13	HD/CS
6	GND	14	VD
7	GND	15	–
8	GND		

COMPUTER/COMPONENT VIDEO DVI-D IN (HDCP) 端子（DVI-D 24 ピン）

PIN No.	仕 様	PIN No.	仕 様	PIN No.	仕 様
1	TMDS DATA 2 –	9	TMDS DATA 1 –	17	TMDS DATA 0 –
2	TMDS DATA 2 +	10	TMDS DATA 1 +	18	TMDS DATA 0 +
3	TMDS DATA 2 Shield	11	TMDS DATA 1 Shield	19	TMDS DATA 0 Shield
4	–	12	–	20	–
5	–	13	–	21	–
6	DDC Clock	14	+ 5V Power	22	TMDS Clock Shield
7	DDC Data	15	GND (for +5V)	23	TMDS Clock +
8	–	16	Hot Plug Detect	24	TMDS Clock –

インジケーターの見かた

本機には、内部の状態を知らせるインジケーターが 2 つあります。インジケーターの光りかたで、どのような状態かを知ることができます。次のことをお調べになって、それでも不具合があるときは使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、三菱電機テクニカルサポートセンターにご連絡ください。

正常時

POWER	STATUS	状態	備考
赤点灯	消灯	電源スタンバイ状態	
	緑点滅	クーリング中	電源「入」の操作はできません。
緑点灯	緑点滅	ランプスタンバイ状態	電源「切」の操作はできません。
	緑点灯	電源「入」（通常時）	

異常時

POWER	STATUS	状態	備考
緑点灯 または 赤点灯	オレンジ点滅	本機内部が高温になっている ● 吸気口または排気口をふさいでいる。 ● 暖房の吹出し口など高温になる場所で使用している。	● ふさいでいる物をとる。 ● 設置場所を変える。
赤点灯	緑点滅	保護回路がはたらいている または ランプが異常	● STATUS インジケーターの緑点滅が消えてから電源ボタンを押す。 上記の操作を数回行っても、光源ランプが点灯しないときは、光源ランプを交換してください。 光源ランプのご購入は、お買い上げの販売店または三菱電機テクニカルサポートセンターにご依頼ください。
緑点灯	赤 / 緑点滅	ランプ交換表示（通算約 3000 時間※1 使用・電源が「入」のとき）	光源ランプを交換してください。 光源ランプのご購入は、お買い上げの販売店または三菱電機テクニカルサポートセンターにご依頼ください。
赤点灯	赤点滅	ランプ交換表示（通算約 3000 時間※1 使用・電源が「切」のとき）	
	赤点灯	ランプ交換表示（通算約 4000 時間※1※2 使用）	
赤 / 緑点滅	点灯 または 点滅	故障	電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

※1：ランプモードを「低」にした場合の時間（「標準」にした場合の時間は短くなります）。
※2：ランプモードを「低」にした場合の時間（「標準」にした場合の時間は約2000 時間）。

保証とアフターサービス

■保証書（別添付）

●保証書は、必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。
内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

保証期間
お買上げ日から 1 年間です
但し、ランプは 1 年以内で 500 時間まで

● ランプ使用時間の確認方法
スタンバイ状態で、▲、▼ボタンを押しながら、電源ボタン（⏻）を押したとき、STATUS インジケーターが約 5 秒間、緑色に点灯すれば、ランプ使用時間は 500 時間以内です（ランプ使用中は点灯しません）。

● 光源ランプを交換されるときは
光源ランプは専用の VLT-XD3200LP をご使用ください。他のランプを使用された場合、製品の保証を受けられないことがあります。

■補修用性能部品の最低保有期間

●当社は、DLP® プロジェクターの補修用性能部品を、製造打切り後最低 8 年間保有しています。
●性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
●光源ランプなどの消耗部品の他に、液晶パネル、偏光板、PBS（光偏光素子）、カラーホイールなどの光学部品及び冷却ファンは寿命部品で、定期的な交換が必要です。長時間（毎日6時間以上）ご使用されると、1年未満であっても修理・交換が必要になる場合があります。また、たばこの煙やほこりの多い場所でご使用になると、定期的な交換サイクルを早める場合があります。詳しくは、三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

●三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

■修理を依頼されるときは

◎「故障かなと思ったら」の手順にしたがって、お調べください。
●なお、不具合があるときは、電源を切ったあと、必ず電源プラグを抜いてから、三菱電機テクニカルサポートセンターにご連絡ください。

◎ 保証期間中は
修理に際しましては、保証書をご提示ください。
保証書の規定にしたがって、三菱電機テクニカルサポートセンターが修理させていただきます。

◎ 保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

◎ 修理料金は
技術料＋部品代（＋出張料）などで構成されています。

◎ ご連絡いただきたい内容

1. 品　　名　　三菱 DLP® プロジェクター
2. 形　　名　　LVP-XD3200
3. お買上げ日　　　年　月　日
4. 故障の状況　（できるだけ具体的に）
5. ご住所（付近の目印なども）
6. お名前・電話番号・訪問希望日

お問合わせ窓口におけるお客さまの個人情報のお取り扱いについて

三菱電機株式会社は、お客さまからご提供いただきました個人情報を、下記のようにお取り扱いします。

1. お問合わせ（ご依頼）いただいた修理・保守・工事、および製品のお取り扱いに関連してお客さまよりご提供いただいた個人情報は、本目的ならびに製品品質やサービス品質の改善・製品情報のお知らせに利用します。
2. 上記利用目的のために、お問合わせ（ご依頼）内容の記録を残すことがあります。
3. あらかじめお客さまからご了解をいただいている場合および下記の場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を提供・開示することはありません。
   ① 上記利用目的のために、当社グループ会社・協力会社などに業務委託する場合。
   ② 法令等の定める規定に基づく場合。
4. 個人情報に関するご相談は、お問合わせをいただきました窓口にご連絡ください。

三菱電機
テクニカルサポートセンターのご案内

テクニカルサポートセンター

修理、取り扱いのご相談、技術的なお問合わせは

全国どこからでもおかけいただける
三菱電機テクニカルサポートセンター
0120-32-7440（無料）
Tel:075-353-0654
（携帯電話、PHSでお問い合わせの場合）

■受付時間　平日・土日・祝日（弊社指定休日除く）
午前 9：00〜12：00/午後 1：00〜9：00

FAX　075-353-0685
E-mail　pep-m@fuso.co.jp

この製品に関する**詳細情報**や**応用例**などを、WWWサーバでもご提供しています。
www.MitsubishiElectric.co.jp/projector/business

三菱電機株式会社（本社窓口）

購入、買替えのご相談は
三菱電機株式会社（本社窓口）
TEL:03-3218-6107（有料）

■ 受付時間　平日（土日・祝日・弊社指定休日除く）
午前 9：00〜12：00/午後 1：00〜5：30

●所在地、電話番号などについては変更になることがありますので、あらかじめご了承願います。

● ご購入店などをメモしておきますとあとで役にたちます。

購入年月日

購入店名（住所）

電話番号

このDLP® プロジェクターの形名はLVP-XD3200です。

愛情点検

● 長年ご使用の場合は点検をぜひ！

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合いにより部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なって事故につながることもあります。

このような症状はありませんか	● 電源コード、電源プラグが異常に熱い。 ● コゲくさい臭いがする。 ● 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。 ● 電源スイッチを入れても映像がでない。 ● 映像が乱れたり、画面が異常にかけたりする。 ● その他の異常・故障がある。

ご使用中止	故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグをはずして、必ず販売店にご相談ください。

DLP®プロジェクターの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

B

PRINTED IN JAPAN

京都製作所　〒617－8550 京都府長岡京市馬場図所1番地

871D532A10